

沼津高専だより

第98号

平成23年3月15日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
TEL (055) 921-2700



題字：柳下福蔵 学校長

☆沼津高専 ホームページアドレス (URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

目次

★沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針 2

★校長・副校長・4校長補佐から（平成22年度総評）

高専教育のさらなる高度化に向けて 校長 柳下 福藏... 3

平成22年度を振り返って 副校長(教務主事) 大島 茂... 4

平成22年度を学生指導から振り返る 校長補佐(学生主事) 蓮 實 文彦... 4

平成22年度総評 校長補佐(寮務主事) 遠 藤 良樹... 5

平成22年度の専攻科総評 校長補佐(専攻科長) 芳 野 恭士... 6

平成22年度を振り返り 校長補佐(特定業務担当) 大久保清美... 7

★各学科から（平成22年度総評）

平成22年度を振り返って 機械工学科長 小林 隆 志... 7

電気電子工学科この一年 電気電子工学科長 望 月 孔 二... 8

平成22年度末にあたって 電子制御工学科長 舟 田 敏 雄... 9

平成22年度を振り返って 制御情報工学科長 平 谷 賢 治... 9

物質工学科平成22年度総評 物質工学科長 押 川 達 夫... 10

平成22年度を終えるにあたり 教養科長 西 垣 誠 一... 11

★部活動

第45回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧 12

第48回「東海地区国立高等専門学校体育大会」成績一覧 12

●全国大会出場報告

全国への道 サッカー部 長 屋 浩 介... 13

高専大会全国大会を終えて 水泳部 榊 山 一 規... 14

全国大会出場を通して バドミントン部 米 山 沙 弥... 14

沼津高専のたすきを繋ぐ 陸上部 望 月 玲 於... 15

★行事・コンテスト・その他イベント

●体育祭

充実した体育祭を 体育祭実行委員長 電気電子工学科4年 渡 邊 頌 也... 15

●高専祭

第45回高専祭を終えて 高専祭実行委員長 電子制御工学科5年 佐 藤 正 英... 16

●3年スキー合宿研修

3年スキー合宿研修報告 3学年担任(学年代表) 芹 澤 弘 秀... 16

スキー研修に行つて 制御情報工学科3年 鈴 木 洋 輔... 17

●ロボットコンテスト2010

ロボコン2010と沼津のロボコン部 ロボコン部顧問教員 望 月 孔 二... 17

ロボコン部 ロボコン部部長 電子制御工学科3年 野 澤 雅 利... 18

●第6回沼津高専英語スピーチコンテスト

第6回校内英語スピーチコンテストの結果とご報告 19

第6回沼津高専英語スピーチコンテストに参加して 機械工学科2年 宮 川 綾 音... 19

スピーチコンテストに出て 制御情報工学科4年 赤 沼 亮 介... 19

●その他イベント

イギリス語学研修報告

英国語学研修報告 校長補佐(特定業務担当) 大久保清美... 20

日本機械学会優秀講演表彰受賞

更なる飛躍への挑戦 制御・情報システム工学専攻1年 早 苗 駿 一... 20

第3回 高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ3次元デジタル設計造形コンテスト入賞

学生の「3次元デジタル設計造形コンテスト」奮闘記 機械工学科 山 中 仁... 21

第1回原子力・エネルギーに関する課題研究コンクール優秀賞受賞

「第1回原子力・エネルギーに関する課題研究コンクール」優秀賞を受賞 物質工学科 渡 辺 敦 雄... 22

デジタル技術検定優秀賞受賞

デジタル技術検定優秀賞受賞の報告 電子制御工学科5年担任 川 上 誠... 23

電子制御工学科5年 佐 々 木 良 介

ケニアロボコンへの技術協力

ケニアの地を踏んで 制御・情報システム工学専攻1年 長 谷 川 輔... 24

★退職教職員から

定年を迎えて 教養科 谷 次 雄... 25

優しさにありがとう 寮監 牧 野 博 充... 26

教えるということ 物質工学科 渡 辺 敦 雄... 26

努力 学生課教務主任 青 木 さ え 子... 27

個性というもの 技術長 増 田 博 代... 27

定年を迎えて 技術専門職員 永 山 洋 一... 28

★卒業生・修了生から

5年間の学生生活を終えて 機械工学科5年 宮 川 稜... 28

沼津高専で得たもの 電気電子工学科5年 中 川 周 平... 29

5年間高専生をやつて 電子制御工学科5年 金 子 裕 哉... 29

とある高専の専攻科生 機械・電気システム工学専攻2年 境 田 裕... 30

★私の高専時代

高専時代を振り返り——友達、チャレンジ精神 電気電子工学科 江 間 敏... 31

私の高専時代...と音楽 電子制御工学科 長 澤 正 氏... 32

★学生の研究活動（2010.5.1～2011.4.30） 33

★平成22年度卒業生・修了生進路先一覧 46

★教育後援会から

卒業に際して 教育後援会会長（C5） 芹 澤 啓 行... 48

卒業に際して 教育後援会副会長（C5） 吉 田 博... 48

★同窓会から

同窓会へのご案内と同窓会活動のご紹介 同窓会会長 名 倉 光 雄... 49

★事務部から

平成23年度前期分授業料の免除および徴収猶予について 50

平成23年度（平成23年4月～平成24年3月）行事予定表 50

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目 的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に答え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- ・ 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- ・ 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- ・ 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- ・ 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

校長・副校長・4校長補佐から（平成22年度総評）



高専教育のさらなる 高度化に向けて

学 校 長
柳 下 福 藏

55校の国立高専が独立行政法人化されて第一期（平成16年4月から5年間）が経過し、第二期の二年目にあたる平成22年度が終わろうとしています。本校は年度末に向けて平成22年度年度計画に対する自己評価を纏め、併せて平成23年度年度計画の策定を進めているところです。豊橋技術科学大学、静岡大学、地域の大手企業、静岡県・沼津市の教育界、教育後援会、同窓会からの各委員により構成された本校の運営諮問会議（平成23年7月開催予定）において、平成22年度自己評価の確認後、平成23年度年度計画の諮問を受けることとなります。これまでの年度計画及び自己評価の結果は本校のホームページに公開されていますのでご覧いただきご意見等お寄せいただければ幸いです。

本校の第二期中期計画・平成22年度及び23年度年度計画の基本的なところは、中央教育審議会が高専教育の充実の方向として提示した

- それぞれの高等専門学校が自主的・自律的改革に不断に取り組み、社会経済環境の変化に積極的に対応する
- 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ
- 多様な高等教育機関のうちの一つとして本科・専攻科の位置付けを明確に
- 産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者等の輩出へ

上記4項目の内容を沼津高専に適合するように具体化し、併せて、本校の教育内容のさらなる高度化を目指すものであります。基本的なところは、本校の教育理念である「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」と相通ずるものとなっています。特に、産業界や地域社会との連携に関しては、産業界の未曾有の不況化にもかかわらず地域共同テクノセンターを核として、地域企業との共同研究・受託研究・技術相談が活発に進められており、共同研究・受託研究が卒業研究・専攻科研究のテーマとして学生の総合開発能力の育成に極めて大きな貢献していることは高専教育の特長を明確なものとしています。

平成21年度文部科学省の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」に採択された「富士山麓医用機

器開発エンジニア養成プログラム」は、静岡県のファルマバレー・プロジェクトによる東部地域再生計画を中小企業の人材育成面から支援する事業であり、第一期受講生及び第二期受講生の各10名に対して隔週土曜日に沼津高専と東海大学開発工学部において講義、実験・実習が順調に進められています。第一期受講生は本プログラムの特徴である「開発実習」において、簡単な医用機器の開発設計・製造に取り組むステージとなっています。

電気自動車に代表されるように、産業構造の大幅な変革に対応するために、平成21年4月に将来検討ワーキンググループを立ち上げ、9月に教育課程改定案の答申をいただきました。この答申に基づき、本科5学科の構成に1学年混合学級、2学年ミニ研究、3・4・5学年コース制（新エネルギーコース、環境デザインコース、医療福祉機器開発コース）を導入する新教育課程の骨格ができあがりました。平成24年度入学生から新教育課程による教育がスタートできるよう鋭意準備を進めているところであります。

学生諸君は、高野連地区大会、一日体験入学、体育大会東海地区大会・全国大会、高専祭、ロボコン、プロコン、吹奏楽演奏会などにおいて、それぞれの立場で活躍いただきましたが、来年度も納得できる結果を目指して継続的に頑張っていただきたいと願っています。

5年生諸君・専攻科2年生諸君、卒業・修了、本当におめでとうございます。米国に端を発した100年に一度と言われている世界同時大不況の影響に円高の追い打ちを受け、日本の製造業界は極めて厳しい状況が続いていますが、このような時だからこそ未来に向けての技術開発が必要不可欠であります。リチウムイオン電池を開発された吉野 彰先生のご講演を賜った文化講演会は極めて印象深いものでした。

大卒学生の50数%の就職内定率に対して、本校の就職内定率100%は、本校の卒業生・修了生に対する企業側の期待がいかに大きいかを端的に物語っていると思います。一方で、経済状況が厳しい時の採用者の中から優秀な技術者が多く出る、という企業側の経験則があります。ともあれ、産業界に就職する諸君、大学・専攻科・大学院に進学する諸君にとって、沼津高専における5年間の学生生活はかけがえのない五年（いつとせ）であります。ゆるぎない人生を築き上げる四つの原則

- 公明正大であること
- 清廉潔白であること
- 裏表がないこと
- 思いやりがあること

を贈る言葉として、卒業生・修了生諸君の新たな社会でのご活躍を心より祈念します。



平成22年度を振り返って

副校長（教務主事）
大島 茂

平成22年度も残すところ僅かとなりました。1年を通して最も重く心にあることは、留年・退学者を減らしたいという思いです。昨年度と同様に、1年生に対して教育経験豊かな非常勤講師の水口先生にお願いし、数学の補習授業を実施しました。前期中間試験後から前期末試験までの間に6回、後期中間試験までに3回、学年末試験までに6回実施しました。受講者は15名前後の少人数に絞り、勉強方法の指導も含め、個々の能力に合わせたきめ細かい指導をして頂いています。成績の向上が認められ自力で頑張れるようになった人も10名近くいます。逆に、新たに補習に組み込まれた人もいます。塾などで教えられるままに覚えるだけという中学時代の受身的な勉強方法から早く抜け出すことが大切です。数学の補習授業を通じてそのきっかけを掴んでくれることを期待しています。

2、3年生を対象とした学習相談の機会も設けました。放課後の1時間半、週に1度ですが、希望する学生が訪れて数学を中心とする学習支援を受けることができます。水口先生と専攻科生の協力を得て実施しています。相談に訪れた学生達は非常に熱心に学習し、わからないでいた問題が解決できた時、胸中の霧が晴れたような喜びの表情を現しています。勉学の中にこのような喜びがあることを多くの学生に知ってもらうことが大切なのだと思います。今のところ相談に訪れる学生数は多くありません。もっと多くの学生達が利用して欲しいものと思います。

今年度から1、2年生に対する進級要件を少し弾力的に運用することを決めました。必修科目に関する要件を満たさない場合でも、修得単位数の要件を満たしていれば次年度の勉学に対する本人の決意を確認した上で進級させることにしました。早い時期に諦めさせることなく、心機一転、もう一度頑張ってみるチャンスを与えてみたいという思いからです。ただし、これは大変な冒険でもあります。なぜならば、3年生以上の進級要件はこれまで通りで変更しませんので、仮に上記のような状態で2

年生、3年生に進級できたとしても、その先の4年生に進級するためには必修科目に関する要件を満たさなければなりません。その要件を満たすところまで再評価により不合格科目を減らさなければなりません。多くの不合格科目を抱える学生にとってそれは並大抵のことではないでしょう。このことをよく理解しないで、以前よりも進級しやすくなったと安易に喜んでいる1、2年生がいると聞き非常に心配しています。不合格科目を持たずに進級するのが普通の姿であるという感覚を取戻す必要があります。

平成24年度に創立50周年を迎えようとする現在、これまでの社会、経済、産業構造の変化に対応すべく本校はいろいろな面で大きな変革を進めています。平成24年度の入学生からカリキュラムに大幅な変更を実施すべく、ワーキンググループで種々検討を重ねてきています。また、来年度から夏季休業を8月初旬から9月後半の時期に移行することを決定しました。半数を超える高専がすでに移行しており、残る多くの高専も数年のうちに移行する計画を表明しています。高専機構全体の方向性に同調することが理由の一つですが、前期末試験を夏季休業前に行うことで学習の習熟度向上を期待しています。夏季休業期間変更の決定に伴い来年度の行事にも種々変更が生じます。1～4年生の保護者懇談会の時期など、例年と異なるところが出てきますがご理解下さるようお願い申し上げます。

昨年末に県と県教委は、平成23年度から10年間を見通した県教育振興計画案を公表し、その中で「有徳の人」の育成を基本目標に据えました。有徳の人の定義として、「自らの資質・能力を伸ばし、個人として自立した人」、「多様な生き方や価値観を認め、人との関わり合いを大切にす人」、「社会の一員として、よりよい社会作りに参画し、行動する人」の三つを挙げています。まさに本校の教育理念と重なります。人や社会との関わり合いを学生達にたくさん経験させることの大切さを改めて感じます。学外へ出て多くの人と関わる機会を持つことは大変有益なことです。インターンシップはその一つのよい機会です。今年度は専攻科生も含め100名以上が参加しました。狩野川河川敷の清掃ボランティアや沼津特別支援学校の運動会の支援ボランティアに参加した学生もいました。地域活動やボランティア活動などの機会がありましたら、ご家庭からも参加を促してみたいと思います。



平成22年度を 学生指導から振り返る

校長補佐（学生主事）
蓮 實 文 彦

平成22年度、「学生が落ち着いて勉学し積極的に課外活動できる環境の提供」を目指し、教職員一体となって取り組んでまいりました。

本年度、強く印象に残ったことがらをご報告いたします。11月6、7日、晴天の秋空の下、第45回高専祭が開催されました。多くの方々のご来場を頂き心より感謝申し上げます。この中で、全校学生1000名以上が参加し、

今年度の高専祭テーマ「華」を人文字で描き（花びら）プロの写真家に撮影して頂きました。この写真は、学生玄関にパネルとして飾りました。高専祭での念願であった「全員参加で記念にのこるものを…」が記念となる45回の高専祭で実現しました。ほぼ1年間を掛け、佐藤正英実行委員長はじめ高専祭スタッフの寝食を忘れての奮闘ぶりには、脱帽でした。

また、金子裕哉学生会長を中心とした様々なボランティア活動も印象に残りました。6月のゴミフェスタin千本浜での清掃活動、10月にはラグビー部員が沼津特別支援学校の運動会をサポート、11月には高専祭製作スタッフが自作した「ねこバス」を幼稚園への寄贈など、本校学生の陰に隠れた善行にも心打たれました。

クラブ活動では、バドミントン、空手、サッカーが東海地区高専体育大会優勝を勝ち取りました。中でもバドミントンは、団体の他、ダブルス、シングルの3部門で優勝しました。残念ながら優勝できなかったチームが夜遅く学校に戻り、コーチ、顧問教員を囲んでの悔しさに満ちたミーティングも印象に残ったシーンでした。

これらの心打たれる場面ばかりであれば、学生指導も楽しい仕事なのですが、これからの日本を支える沼津高専生がこの状態で大丈夫なのかとの思いに駆られる事件にも遭遇しました。窃盗（自転車盗など）、コンピューターによる迷惑行為（ウイルス挿入）など。このような事件が起こる度に、10名以上の関係教職員が集まり罪を犯した学生にとって最善の教育指導処置は何かを長時間を掛けて議論します。来年度こそは、このような会議が無いことを祈っております。

加えて、12月に入り立て続けに4件の交通事故が発生しました。毎朝、正門付近にて、学生委員会の教職員で交通安全を訴える「挨拶運動」を行っていますが、この

教職員の「願い届け」との思いです。

3年生のスキー研修は、研修場所を岐阜県の乗鞍青少年交流の家（高山市）から静岡県中央青少年交流の家（御殿場市）に変更しました。これは、怪我や病気により、研修途中で下山する学生を迎えに来られる保護者の方々が、雪深い飛騨の山道を経由する危険を回避することに加え、これまでのスキー研修で指摘されてきたさまざまな問題点を改善するためです。佐藤前主事が担当されていたときから時間をかけて慎重に検討を重ねた結果、今年度ようやく研修場所の変更に至りました。保護者の方々のご理解に感謝申し上げます。

学生の生活面での活動の様子をご紹介しますが、今年度の目標に関する大きな成果の一つご報告致します。前任の佐藤主事、奥野事務部長を中心に事務部スタッフによる計画、立案、予算確保など懸命な努力の結果、「学生支援総ゾーン」が11月に竣工し、早速、その施設での学生支援業務を開始いたしました。学生課における学生支援に加え、保健管理、メンタルヘルスサポートが一元的に提供できる施設となりました。

最後に、就職に関する情報です。昨年10月1日時点での大学生の内定率57.6%が示すように過去最低の内定率となっている就職戦線ですが、本校も例外でなく、一部の学生ですが、何度か採用試験を受けなければならず、容易に内定は得られませんでした。前号の高専だよりに書かせて頂きましたように、自分の人生をどう描くのか、学生の就労意識、勉学意欲向上を目指した抜本的対策が急がれることを痛感した1年でした。

来年度は今年度の反省を糧に、より良い学生指導を進めてゆく所存です。次年度も保護者の方々の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。



平成22年度総評

校長補佐（寮務主事）

遠藤 良樹

日ごろ寮運営にご協力、ご理解頂きありがとうございます。今年度もすばらしい寮生会の協力のもとスタートしましたと前号でお知らせいたしましたが、期待通りの活躍をみせてくれまして年度末を迎えております。長年寮務関係携わってまいりましたが、これほど寮生会が頼りになる存在であることを知りませんでした。

さて今年度の活動を簡単に振り返ってみます。

4月：25日に新入生歓迎のための親睦会が行われました。

5月：寮最大のイベント寮祭が16日に行われました。寮祭の成功は保護者の皆様のご協力がなければ達成でき

ません。お礼申し上げます。

6月：今年も長泉北中学学習支援が始まりました。寮で行われているマテカの拡張版と捉えています。

7月：10日に夏祭りが行われました。今年は企画長の発案で花火師を招いて打ち上げ花火を行いました。

8月：28日から30日にかけて夏季寮生リーダー研修を行い、この研修中に長泉消防署において多くの指導寮生が救命救急講習を受けました。

9月：10日に4月に行われました地震想定防災訓練と別に火災想定避難訓練を実施しました。29日には沖繩高専から寮務主事と指導寮生4名が本校寮を視察に来られました。

10月：昨年度新型インフルエンザの影響で中止された一関高専との交換寮生を13日から17日にかけて実施しました。同時期、釧路高専からも指導寮生2人が本校寮に宿泊体験を行っています。

11月：10月から始まった来年度寮長選挙とこの月に行われた同副寮長選挙により来年度寮生会3役が決まりま

した。ご紹介しますと、

寮長 片山晃次郎 君 (D 3、現光峰寮棟長)
副寮長 川口 直輝 君 (E 3、現秀峰寮棟長)
松永信之介 君 (E 3、現マテカ長)

です。

12月：4日にバス旅行が実施され、富士急ハイランドに行ってみりました。

1月：15日に豊田高専寮務主事をはじめ5名の教員と15名の指導寮生が本校寮を視察に来られました。

以上が今年度の主な活動です。これらの活動の多くは寮生会が積極的、自主的に企画、立案、実行しております。もちろん寮生会をバックアップしました寮監、寮事務、寮務関係教員の働きもありますが、少ない教職員でも500名を超える寮を管理運営できましたのも寮生会の働きがあったからだと思います。このようなすばらしい人材が沼津高専に入学してくることをうれしく思うとともに、これまで育てられた保護者の皆様に感謝いたします。

施設の面では暑さ対策として各棟談話室に製氷機とエアコンおよび合宿所大部屋にエアコンが設置されました。この夏は記録的な猛暑で寮生には大変な思いをさせ、また保護者の皆様にはご心配をおかけしました。来年度夏季休業期間移行に伴い、さらなる暑さ対策が必要と考え

ております。

最後に、3年間本校寮監として学生指導、寮運営に情熱を注いで下さいました牧野博充先生がこの3月で定年退職されます。先生は前任の富士高校第1教頭を定年退職された後、平成20年に4月に本校学生寮寮監に着任され、それまで培われました公立高校での生徒指導のご経験を活かされ学生寮の運営、発展に貢献されました。最初の2年間は前主事とともに活動され、そして今年度は経験不足のわたしを多くの場面で助けて下さいました。寮生にとりましては時には厳しい父親として、時には人生の大先輩として、そして的確なアドバイスをして下さるベテラン教師として、その存在は大変大きなものでした。短い期間でしたが学寮に注いで下さいましたご尽力に感謝いたします。伝統ある沼津高専学生寮の歴史の1ページに先生のお名前が記録されることをうれしく思います。

なお、先生は来年度も別の形で本校学生のために活躍されます。

終わりに、1年間学寮を支えて下さった寮務関係教員、寮務係職員、宿直して下さいました教員、学生課職員、保護者の皆様、そして寮生会、全寮生に感謝致します。ありがとうございました。



平成22年度の 専攻科総評

校長補佐（専攻科長）
芳野 恭 士

専攻科生ご父兄の皆様には、日頃より本校専攻科の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。本校専攻科は平成8年度に設置されて以来、本年度で15年が過ぎました。専攻科の学生は、9月に1名が前期で修了し、平成23年1月現在で1年生36名、2年生27名の計63名が在籍しており、4月にはあらたに29名の入学者を迎える予定でおります。

専攻科では、本科で身に付けたそれぞれの得意分野の専門知識や技術に磨きをかけると共に、他の工学分野の学習も行うことでより視野の広い技術者の養成を目指しています。そのため、機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻の3つの専攻を合わせて「総合システム工学」という単一の教育プログラムを構成しています。本科では実施がむずかしいと考えられる、異なる専攻の学生達がチームを組んで工学的課題に取り組む「複合実験」を取り入れるなど、より実践的な技術者教育に常に工夫を凝らしています。この「総合システム工学」プログラムは、本科4、5年

の教育課程と合わせて日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を2004年度より受けており、昨年度に継続審査を受け審査員より学生及び教職員の意欲と能力、充実した授業内容と教育施設について高い評価をいただき、2014年度まで認定が継続されました。

専攻科では、修了前に大学評価・学位授与機構の審査による学士の取得を修了要件としているため、修了生は大学卒業と同様の学士(工学)となります。毎年12月に行われている東海大学・静岡県立大学・日本大学・富士常葉大学等との合同研究発表会では、昨年の2倍に近い42名の専攻科生が研究発表を行い、7名がベストポスター優秀賞を受賞しました。

厳しい経済状況の中、専攻科生の進路も決して楽観できませんが、専攻科の企業への知名度も徐々に高まっているのを感じます。平成22年度3月期修了予定者27名はほぼ全員の進路が決定しており、就職内定者は16名(日立化成工業(株)、三菱重工業(株)、東燃ゼネラル石油(株)、旭化成(株)、クノール食品(株)、(株)コナミデジタルエンタテインメントなど)、これから受験を予定している者1名を含めた大学院への進学者は11名(東京工業大学大学院、横浜国立大学大学院、電気通信大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学など)となっています。今後も、より多くの本科生に専攻科に進学していただけるよう教育課程の向上に努力して参りますので、沼津高専専攻科をよろしく願いいたします。



平成22年度を振り返り

校長補佐（特定業務担当）
大久保 清 美

特定業務担当校長補佐として私に課せられた仕事は主に、国際交流の推進、留学生の指導、教員の能力向上を図るための「教員FD（Faculty Development）研修会」の企画立案・実施等でしたが、今年度はさらに、本校が平成22年度全国高専新任教員研修会の世話校に当たっていましたので、助言者としてその運営のお手伝いもさせていただきました。

国際交流については主に2つの仕事がありました。1つは、大島副校長が従来手がけてこられたMSOE語学研修を引き継ぎ、本校学生を夏の短期語学研修に派遣することでした。今年度は1年生1名、2年生3名、3年生1名、4年生2名、合計7名の学生が、8月8日から23日の間、英国ロンドン郊外のイーストボーンでホームステイをしながら英語学校に通い、同時にさまざまな異文化体験をしました。（この詳細については別稿をご参照ください。）

国際交流の仕事の2つ目は、ドイツの応用科学大学（専門大学）と本校との間で学術交流協定を結び、交換留学生や海外インターンシップの機会を提供するなど、学生や教員の海外交流を促進することです。当初目指していたニュルンベルク応用科学大学との交渉は残念ながら不調に終わったため、現在他の応用科学大学との交渉

を模索中です。

ところで今年度、2名の学生の海外派遣が決まりましたので、この場を借りてご報告しておきます。一名は専攻科1年の早苗駿一君で、高専機構主催の「海外インターンシップ・プログラム」の派遣生に選ばれ、3月に3週間、スイスの森精機製作所で研修を行います。もう一名はD5金子裕哉君（専攻科進学予定）で、ライオンズクラブ国際協会主催の「2011年度夏季青少年海外派遣プログラム」の奨学生に選ばれ、8月に3週間、ドイツに派遣される予定です。

在籍するアジアからの留学生については例年どおり、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行（名古屋）を7月に実施するとともに、12月に東海地区高専留学生交流会（スキー研修）に参加しました。また、高専祭での「留学生の部屋」は好評を博しました。さらに、10月に行われた沼津国際交流協会主催の「英語&日本語スピーチコンテスト」日本語部門で、E3ホン君（マレーシア出身）が優勝、D4フィ君（ベトナム出身）が2位と輝かしい成績を残したこともご報告しておきます。

教員FD研修会に関しては、5月に第1回「一般科目の教育方法を考える（低学年生の教育方法を考える）」、7月に第2回「クラス経営・生活指導（担任の指導力向上策を考える）」、10月に第3回「キャリア教育」の各テーマについて行い、3月に第4回「メンタルヘルス」を行う予定です。毎回、外部講師に基調講演をお願いし、その後本校教員を交えてパネルディスカッションを行う、シンポジウム形式で行っています。この研修が少しでも本校教員の教育力向上につながることを願っています。

各学科から（平成22年度総評）



平成22年度を振り返って

機械工学科長
小林 隆 志

日本経済は2008年の金融危機を乗り越え回復基調にあります。一時1ドル80円に迫る円高もあり、製造業を中心とする多くの企業にとっては楽観を許さない状況です。日本列島は夏の猛暑、冬の寒波、異常ともいえる気象に見舞われ、地球の気候変動が心配されています。そんな中で、小惑星探査機「はやぶさ」が数々のトラブルを乗り越えて小惑星イトカワから地球に帰還したことは、明るいニュースでした。日本の科学技術水準の高さを世界に示すとともに、あきらめないことの大切さをわれわれに教えてくれました。ご存じのように「はやぶさ」は宇

宙航空研究開発機構（JAXA）のプロジェクトです。実はJAXAでも機械工学科の卒業生が活躍しています。4年生対象の就職懇談会に出席して、学生を奮い立たせる話をしてくれました。今年、何人かの機械工学科の卒業生と会う機会がありました。多くの卒業生が日本の産業界、科学技術分野の一線で活躍していることを改めて実感しました。この春めでたく卒業式・修了式を迎えた皆さんも、企業や大学で努力を重ね、日本の産業界を支える人材として活躍されることを祈っています。

進路状況は本科5年生の3分の2が就職、3分の1が進学、専攻科生3名は就職です。就職については、今春卒業見込みの大学生の就職内定率（12月1日現在）は過去最低の68.8%と、極めて厳しい状況です。このような状況ですが、機械工学科には日本を代表する大手企業や地元企業約370社から求人いただき、求人倍率は12倍超、最終的に就職希望者全員が内定を得ることができました。本人の努力と同時に、沼津高専の先輩諸氏がこれ

まで築いた伝統の力を強く感じました。その一方で、企業が学生を見る目は厳しくなり、不合格の件数が急増しました。学生の皆さんは技術者としての実力を養うとともに、就職に対するしっかりとした心構えをもつことが大切です。

学生の皆さんの学校生活で心配なことがあります。それは、全般に欠席や遅刻が目立つこと、授業に集中できない学生が目立つこと、不合格科目の再評価に積極性が見られないことなどです。“ゆとり教育”のせいにする向きもありますが、理由などどうでもいいことです。今努力できなければ、将来の成功もありえません。将来技術者として活躍する自分の姿をイメージしてください。そして、日々努力を重ねてください。努力を継続する人には素晴らしい未来が拓けます。

機械工学科では自分の将来について考えてもらうために、1・2年生には5年生から就職・進学体験談を話してもらいました。3年生のステップアップ授業では企業で活躍する技術者の方々から話をさせていただきました。4年生の就職懇談会では卒業生を招いてお話しいただきました。このような話の中にある情報を自らキャッチ

して、生かしてもらいたいと思います。

学生の活動では、12月に長野高専で開催された「3次元デジタル設計造形コンテスト」では、機械工学科3・4年生チームが16高専中4位という好成績を残しました。

教育環境に関して、制御情報工学科の協力を得て、機械工学科実験室の配置換えを行いました。また、設計教育における三次元CAD教育推進のために、コンピュータ演習室の整備（コンピュータ25台）を行いました。機械実習工場では、今年度マシニングセンター、フライス盤が更新され、よりよい環境で実習教育が実施できるようになりました。

スタッフの面では、山中教員を迎え、11名の教員で教育・研究に取り組んでいます。山中教員は技術士の資格を持ち、企業で3次元CADの専門家として活躍していた方です。前述の造形コンテストなどで熱心に学生指導にあたっています。趣味はバイオリン、天文などと多才で、機械工学科に新しい風を吹き込んでいます。

今後も機械工学科教員が一丸となって学生の視点に立った技術者教育に取り組んでまいります。今後とも保護者の皆様のご理解とご支援を心よりお願いいたします。



電気電子工学科 この一年

電気電子工学科長
望月 孔二

まずは、卒業・修了する皆様には、行き先においてこれからますます大きく羽ばたくことを祈念いたします。また、日頃より電気電子工学科の教育・研究にご理解とご支援を頂戴しております保護者の皆様や関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。以下、平成22年度の本学科について記させていただきます。

卒業生と修了生の行き先は、この高専だよりの後半にまとめられていますので、ここでは全体的な傾向や今年の特徴的なことを記させていただきます。

まずは就職です。今年も日本は就職難ですが、幸いにも本学科の就職希望者は全員が行き先を決めることができました。なおかつそのうちの8割の学生は1回目を受けた会社にそのまま合格できました。

進学も、進学希望の学生全員が合格することができました。ただし、少数ですが、昨年度と今年度は滑り止めの学校に不合格となり、強いプレッシャーの下で残りの受験に臨んだ学生が見られました。特に今年は担任から彼らに受験計画の見直しを指導していたのにです。結果的には自分を厳しく見つめなおす機会になりましたし、最終的にはこと無きを得ましたが、次年度以降に進学に臨む皆様は、前提となる試験勉強を含めて十分な準備をお願いいたします。

さて、2012年3月に卒業する学生のための採用活動は既に始まっています。恥ずかしながら、私は今回初めて就職の担当をさせて頂くことになったのですが、来訪されます企業の方々から伺う社会からの高専の評価の高さに、今更ながら驚いているところです。職場での状況を伺いますと、もちろん高専の就職担当に会いに来られるのは高専を評価しているからなのですが、「大卒と高専卒は同じ職場、同じ仕事、(同じ年齢なら)同じ給料ですから、高専から就職して下さい。なお、年齢級は30歳くらいまでであり、それ以降は本人の努力次第。」といった回答を頂くことが多いのです。

産業界からこうした評価を頂けているのは、卒業生が仕事の中で築いてきた信頼の賜物です。この点、高専生は確信をもって授業に臨んで欲しい。しかし、企業は就職試験においてある一定の水準を超えるかどうかを見極めていきます。ですから、いくら高専生だと言っても、就職試験の合格は約束されたものではありません。どんなときも学び続けることが必要です。

在学生の中には留年という結果をもらう人がいるかもしれせん。この制度は、高専と高校の大きな違いであり、大きな試練です。留年は成績が思わしくなかった結果でしょうが、ここ何年かの学生の動向を調べてみますと、留年後のクラスで10番以内に入る優等生になった例も見られます。試練を機に勉学により熱心に取組むようになったからだと思います。ですから、万一留年になった学生は、それが何かを終わらせてしまったとは思わず、むしろ新たなスタートになり得るということを肝に銘じて、成長を誓い実践してください。

最後にスタッフのことを記します。今年度は高専間教

員交流制度により、香川高専の草間講師が本学科で勤務をされています。本学科の教員交流の目的である「低学年の導入教育の開発」に熱心に関わり、毎週のように楽しくもためになる実験テーマを開発・実践中です。この3月で沼津での任期が終わってしまうのは寂しいことで

すが、折角できた縁ですから、今後また何かの折に、協力関係が維持できればと思います。

以上、簡単ですが学科の状況を記させていただきました。今後も電気電子工学科の更なる発展をスタッフ一同築いていく所存です。どうぞよろしく願いいたします。



平成22年度末にあたって

電子制御工学科長
舟田敏雄

本年度も学科長を務めさせていただきました。なんとか無事に年度末を迎えることができました。関係各位、保護者の皆様には、深く感謝いたしております。

さて、当学科の今年度卒業予定者は36名（昨年度40名）で、そのうち就職する者が15名（12名）、沼津高専専攻科への進学が10名（16名）、大学編入学が7名（9名）、自営等が4名となりました。当学科の教員が研究指導している専攻科2年次生につきましては、大学院進学が5名（東京工業大学大学院1名、奈良先端科学技術大学院大学3名、横浜国立大学大学院1名）（昨年度6名）、就職が2名（4名）です。また、昨年度は「進学希望」で卒業となった学生から、大学編入学試験に合格したとの朗報も届きました。

就職に関しては、297社（昨年度330社）から求人があり、就職氷河期の厳しい状況が続きますが、依然として強い期待が高専卒業生に寄せられていることが伺えます。

専攻科受験者は全員合格となり、「本科・専攻科の7年間の教育課程」が定着しつつあることを示しており、次年度も合格基準を満たせば専攻科入学希望者をできるだけ多く受け入れる予定です。また、本学科の専攻科生が相次いで学会の研究発表で表彰されましたことは、本学科の研究教育成果としてご報告したいことです。

昨年11月18日に開催しました学科説明会には116名の保護者の皆様に出席いただきました。当日の資料は本学科の「第21回保護者懇談会資料」としてまとめ、1-4

年の学生に配布し保護者の皆様には郵送致しました。当日のアンケートの「進路の決まった先輩に低学年のクラスに来てもらい、子供の進路の決め手などアドバイスをいただけると有難い」とのご要望も実現致しました。

EMaT（工学系数学統一試験）試験では、上位成績優秀者にD4学生が相当数入り、TOEIC IPの結果でもクラスのscoreの伸びが高く評価されました。全国立高専の3年生に一斉に行われる「学習到達度試験」の数学、物理は翌月には成績が届きますが、そこでも良い結果であるよう願っています。

今年から1、2年はTOEIC bridge、3、4年はTOEIC IP、3年以上はTOEIC公開テストという体制になりました。2011年度より小学校の英語教育が始まりますので、英語の使える技術者教育の一層の推進に期待されます。また、「コミュニケーション能力の不足」が不合格理由の一つに挙げられて来ましたが、そのような点を克服するには、毎日の授業で得られる学問的知識を消化して吸収し、質問・討論などで深め、学習記録を分析して知識を整理・体系化して論理的に考察する言語力・筆記力が要ります。また、取組んで得た「やれば、できる」との自信がさらなる向上につながり、その効果が低学年にも及びつつあります。しっかりと学習して実力をつけ、それが将来の進路選択を切り拓く力になるものと思います。このような流れが続き、本学科の底力となりつつあります。一層の躍進を望みたいものです。

以上、簡単ですが今年度の報告をいたしました。電子制御工学科では教員の世代交代が進み、本学科創立に尽力された先生方が退職されて、新年度には2名の新任教員が着任する予定です。

来年度も電子制御工学科教員一同、学生の資質向上に邁進していくつもりです。保護者の皆様には今後ともご理解とご協力ご支援をお願いいたします。

り返ってみたいと思います。

まずは、5年生の進路状況から。超氷河期と云われた2010年度の就職戦線。5年生は38名中、12名が就職、26名が進学。就職状況は求人企業数は261社。求人倍率は21倍。就職内定先は中部電力、日本たばこ産業、富士通、リコー、NTT-ME、東芝機械、ヤクルト、中部テレコミュニケーション、吉野工業所、東京システムズ、ニューメディア総研など有名大企業。技術力がある地元の日本精機研究所。

また、進学先は東北大、名大の旧帝大系が2名、筑波大、静大、農工大など地方国立大学が9名、豊橋・長岡



平成22年度を振り返って

制御情報工学科長
長谷賢治

早春の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素から制御情報工学科の教育・研究に多大なご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。さて、この紙面をお借りして平成22年度の制御情報工学科を振

の両技科大が6名、専攻科が6名。あと、私大（保育士系）1名、2名が未定です。今年度、就職より進学で苦戦した。もちろん、ストレートで合格する学生もいたが、連戦連敗する学生も。消極的な進路選択。大学へ進むという覚悟ができていなかった。そんな反省を残す結果だった。

昨年度は全国プログラミングコンテスト(自由部門)に初出場で準優勝と企業特別賞をW受賞。そのチャレンジDNAをもってS科チーム(紅林、海野、ハディ、山川、若林、河野(S5))が参加。作品はS4創造設計2009で作製した“Tapolic”。現代人は電器製品依存症。やたらにそれらを電源タップに接続。こんなタップ依存症の人のための電源タップ。この電源タップには3つの機能(1)グラフ表示、(2)お知らせシステム、そして(3)ON/OFF遠隔操作がある。例えば、電気ストーブをつけっぱなしで外出。この知的電源タップはそれを携帯電話に通知。その情報を受けて遠隔操作でそのタップに繋がっている電気ストーブをOFFにする。そんなことが可能なシステム。マイクロソフトなど数社から「是非欲しい技術」とオファーがあった。結果は、入賞を逃した(審査委員の価値観がわれわれのそれとは違う)。しかし、企業に高く評価された作品。このようなイベント参加で企業から注目度No.1の学科に。求人企業を殺到させる教育力No.1の学科になっていきたい。

さて、新しい教育への取り組みを少し紹介したい。一つ目は機械設計のプロが担当するS2機械電気製図。視覚情報中心だった従来型授業から全感覚器官を活用したそれに変革。3角法による「もの」の表現も、実際の

「もの」を机に置き、学生は自分の手でそれに触れ、またそれを把持し、回転、移動等をさせ、「もの」の幾何学的情報のみならず慣性モーメント等の物理的情報も意識下を感じながらスケッチをしていく。まさに、人間のもつ認識能力をフルに活用した製図教育への転換です。もう一つ。S3工作実習の導入教育。ここではわれわれの身の回りにある「もの」は全て人間の感覚や機能の拡張器になっていることを気づかせる教育を試みている。衣服や住居は人間の温度調整機構の拡張。また貨幣は労働を拡張したり貯えたりする方法。などなど。このような「もの」を見る眼をもつことで、受身(無意識)だった「もの」との関わりが能動的(何故なら、自分のある機能の拡張になっているのだから)になる。その他、制御情報工学科では教員の教育力向上プログラムは言うまでもなく、学生意識改革プログラム開発にも取り組みました。以上、簡単ですが今年度の報告をいたしました。

最後に、制御情報工学科スタッフについて。学校経営層の副校長、富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラムの企画・実行の指揮をとっているテクノセンター長、小・中学生対象の公開講座「めざせ！Computer豆博士」の企画・実行役、沼津高専吹奏楽団を牽引している者、国際学会などで世界レベルで研究している者。真の実力を黙々と貯め込んでいる者。皆それぞれ、わが道を信念をもって歩んでいる。こんな制御情報工学科を私は誇らしく思う。来年度も制御情報工学科スタッフ一同、益々、自己研鑽に励み、学生の資質向上に邁進していく所存です。保護者の皆様には今後とも一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



物質工学科 平成22年度総評

物質工学科長
押川 達夫

日頃より物質工学科の教育・研究にご支援を頂戴しております保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。平成22年度の物質工学科の総評を記したいと思います。

平成22年4月に初々しい新入生44名が入学してきました。また、新専攻科生として5名の入学生を迎えました。特に、本科1年生においては御殿場研修で「中学生生活とは大きく異なる環境に慣れる」ことを中心にメッセージを伝えてきました。彼らが大きく育ち、本科を卒業することを切に願っております。

平成22年度の学生進路についてご報告します。5年生の就職希望者は19名(内定率100%)、進学希望者は22名(合格率100%)でした。いずれも大学卒に負けない実績を誇っております。就職については昨今の経済不況にも関わらず、高専OB先輩の力量が高く評価されている影

響もあり、全員内定を勝ち取りました。ここで重要なことは、90%の就職希望者が第一希望会社に内定したことです。また同様に、進学希望者においても希望の国公立大学に全員合格することができました。先が読めない実経済の中、高専卒業で就職するかあるいは進学するか、充分に本人と保護者と相談しながら進路決定を行っていきたく思っております。

就職する卒業生諸君へ！沼津高専卒に自信を持ってよい。なぜなら、君達は物質工学科教員一同が鍛え上げた人物であるからだ。ただし、過信することなくそれぞれの置かれている場所で努力を継続することが大前提である。昨年度の本欄でも述べたが、甘えた気持ちは一切許されない状況であることを認識し、積極的に何でも引き受ける自己体制作りを行ってほしい。このような心構えを持っていれば、きっと君達は困難を打破できるだろう。

大学進学諸君へ！広く深い知識を持ち、総合力を高めるよう精一杯研鑽を積むことが何よりの優先事項である。静岡県がJapanの一つの地方自治体であるように、国の差異はあるがJapanも世界の一つの地方自治体と位置づけた経済社会が現在である。学生諸氏はWorld Wideに活躍するよう準備を怠ってはいけない。

本校においても確実に少子化の状況に進んでいく中、進路への着実な実績は保護者をはじめOB各諸氏の支えがあったの物質工学科の実績と感謝申し上げます。

物質工学科のさらなる発展を教員一同築いていく所存



平成22年を終えるにあたり

教養科長

西垣 誠 一

昨今、「就職できない学生（未だに4月からの就職先が決まらない学生）が如何に多いか」ということが話題になっています。大学生においては現時点での内定率が7割に達していないとか。自らの意志で就職しないのであれば兎も角、折角大学を出ても仕事に就けない不運を思うと、大変な時代になったものだという思いがします。「その点沼津高専の学生は恵まれている。」と言えは言い過ぎでしょうか。学生諸君は、就職は学校にさせてもらっているのではなく、「自分の努力で勝ち得るものだ。」と思っているかもしれませんが、やはり今までの沼津高専の卒業生（先輩方）が築いた沼津高専というブランドは大きいのではないのでしょうか。そういう意味で恵まれていると思うわけですが、そうは言ってもこの就職状況の厳しさは、沼津高専にも押し寄せてきていて、各学科で大変な努力をしております。

さて、学生の皆さんの中あるいは保護者の方の中には、沼津高専を選んだ理由は就職状況が良いからだという方も多いのではと推察しますが、残念ながら沼津高専に入学しただけで立派な技術者の卵となって卒業できるわけではありません。（当たり前ですが。）5年の間にはいろいろな事があります。調子のいい時もあれば悪い時もありますし、悩み事ができたり、壁に当たったりもするでしょう。しかし、そのような中で人間的に成長していかなければ、夢は叶いません。勿論学校の意義はいろいろな教科の講義を通して知識を身につけることにありますが、そればかりでなく子供から大人に成長していく過程で社会人としての常識であったり、世の中を見る目であったりいろいろなことを身につけていかなければなりません。低学年での教育の中でこのことは大きなウエイトを占めていると思いますが、その大部分を担っているの

です。どうぞ宜しくお願い致します。最後に物質工学科長として4年間無事務めたことに保護者の皆様および関係各位に感謝申し上げます。

が学級担任です。第1学年と第2学年の学級担任は教養科の教員が務めています。私は常々教養科の先生方に、「教養科の教員の校務のうち最も重要なのは学級担任の職務だと思っている。」と話しております。ある時は厳しく指導し、またある時は親身になって相談に乗る役割を担えるのは、常日頃からクラスの一人一人に目を配っている担任ならではの。前号の「高専だより」でも書きましたが、保護者の皆様にも、ご心配な事あるいはご意見などがございましたら、ご遠慮なく担任までご相談いただければと思っております。志を持って沼津高専に入学した学生が立派に成長して卒業していつてくれることを願ってやみません。

次に、3月をもって沼津高専教養科を去られる先生についてご紹介します。数学の谷次雄教授が定年退職されます。谷先生は昭和47年4月に沼津高専に赴任されて以来、39年の長きにわたり数学・応用数学の授業の他、一般科目主任、図書館長など校務においても沼津高専のために尽くされてきました。また、一貫して剣道部の指導に当たってこられ、剣道を通して谷先生から多くのものを学び取って世に出た卒業生も大勢いることと思います。谷先生の腕前は剣道六段と伺っております。今後は教科教育からは離れられますが、剣道の方は外部コーチとして引き続き指導していただけるということです。

教養科所属の教員ではありませんが、もうひと方3月に定年を迎えられる方をご紹介します。技術職員の増田博代技術長です。増田技術長は昭和48年4月に沼津高専に赴任されて以来、38年の長きにわたり技術職員として沼津高専の教育に力を尽くしてこられました。増田技術長は、長い間一般科目（教養科の前身）の所属として物理実験・化学実験の支援などに携わり、沼津高専の教育に多大の貢献をされました。今後は再雇用制度により、フルタイムではありませんが、引き続きの技術支援と後進の技術職員の指導に当たられるということです。

以上雑感とお知らせまでですが、教養科教員一同今後とも学生教育のため一生懸命頑張る所存ですので、よろしく申し上げます。

部 活 動

第45回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名
バドミントン	女子個人の部 シングルス	3位	C2	米山沙弥

第48回東海地区国立高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
陸上	男子800m	3位	M5	福田克也	(全国大会出場)
	男子110mハードル	3位	M4	後藤将斗	
	男子走幅跳	3位	D3	伊庭達哉	
	男子砲丸投	3位	E2	杉山元気	
	男子やり投	3位	M4	高梨聖也	
テニス	男子団体の部	2位			
	女子個人の部 シングルス	3位	C4	竹中渚	
バドミントン	女子団体の部	1位			(全国大会出場)
	女子個人の部 シングルス	1位	C2	米山沙弥	(全国大会出場)
	女子個人の部 ダブルス	1位	C3 C2	佐野友美 米山沙弥	(全国大会出場)
空手道	団体戦 総合の部	3位			
	団体戦 組手の部	1位			
	個人戦 組手の部	2位	S2	北風玲太	
	個人戦 組手の部	3位	E5	高田智之	
サッカー		1位			(全国大会出場)
柔道	男子個人の部 60kg級	3位	M5	伊藤洸	
	男子個人の部 90kg級	3位	M4	井上貴裕	
硬式野球		3位			
剣道	男子団体の部 勝抜戦	3位			
	女子団体の部	3位			
水泳	総合	3位			
	男子総合	2位			
	女子総合	2位			
	男子200m平泳ぎ	2位	D2	村串憲一郎	(全国大会出場)
	男子200m背泳ぎ	3位	S2	川口大地	
	男子200m自由形	1位	C3	鈴木卓磨	(全国大会出場)
	男子50m自由形	1位	D4	杉山和暉	
	男子50m自由形	3位	D2	稲鶴和也	
	男子100m平泳ぎ	2位	D2	村串憲一郎	
	男子100m背泳ぎ	2位	S2	川口大地	
	男子100m背泳ぎ	3位	E4	林弘樹	
	男子100m自由形	2位	C3	鈴木卓磨	
	男子100mバタフライ	1位	E5	遠藤雄也	(全国大会出場)
	男子200m個人メドレー	1位	E4	林弘樹	(全国大会出場)
	男子400mリレー	3位	C2 E3 D2 S2	金子喬士郎 山下稜太 稲鶴和也 川口大地	

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
水 泳	男子800mリレー	2位	E 4 D 2 C 3 E 5	林 弘 樹 村 串 憲一郎 鈴 木 卓 磨 遠 藤 雄 也	
	男子400mメドレーリレー	2位	S 2 D 2 E 5 C 3	川 口 大 地 村 串 憲一郎 遠 藤 雄 也 鈴 木 卓 磨	
	女子50m背泳ぎ	3位	M 3	手 嶋 里 帆	
	女子50mバタフライ	2位	C 4	土 屋 陽 香	
	女子50mバタフライ	3位	C 2	芹 澤 梨 香	
	女子100m平泳ぎ	2位	C 4	土 屋 陽 香	
	女子100m自由形	1位	C 1	渡 辺 彩 夏	(全国大会出場)
	女子200mリレー	2位	C 2 C 2 M 3 C 1	芹 澤 梨 香 前 田 英里奈 手 嶋 里 帆 渡 辺 彩 夏	
バスケット ボ ー ル	男子の部	2位			
	女子の部	3位			
弓 道	団体の部	3位			

全国大会出場報告

全国への道

サッカー部 物質工学科5年
長 屋 浩 介

今年もサッカー部は、東海大会を優勝し全国大会に出場することができました。

今年の5年生は1年生の頃からトラブルが多い学年で、1度は部活動が禁止され、奉仕作業をした時期もありました。また、過去の上級生に比べ高校の大会では結果を残せずについて全国出場は厳しいのではないかとされていました。さらに、冬になって出席率の悪さなど、問題は山積みでなかなかチームがまとまりませんでした。

しかしそのような中、上級生がしっかり練習に出席し私をサポートしてくれました。さらに同学年の新しい仲間が増えたり、春には新しくコーチや同学年の仲間が増えたりして、チームがまとまろうとする意識が上級生から下級生へとだんだん伝わっていきました。なかでも、新しいコーチがきてからは練習内容が改善され、良い緊張感が生まれることで質の高い練習をすることができました。

いざ東海大会ではかなり苦戦しました。今年はトーナメント方式のため、負けたら終わりで1試合も落とせませんでした。初戦の岐阜は5年のエースの1点を守りきり勝つ事ができました(1-0)。そして、決勝の豊田戦、全国の切符は手にしていましたが、東海4連覇がか

かっていたのでどうしても勝ちたい相手でした。延長戦までの厳しい戦いでしたが何とか優勝することができました(2-1)。この優勝は17人のメンバーもそうですが、サポートしてくれた下級生達や、トレーナーの曽根さんの力が大きかったと思います。

全国大会は初戦から、2年連続全国優勝している近大高専でした。目標の全国ベスト4を目指して夏休みに例年以上に厳しいトレーニングをしましたが、やはり全国優勝だけあって格の違いを見せつけられました(1-4)。沼津はまだまだトレーニングが足りないと感じさせられました。それでも、チーム全体が最後まで諦めることなく走りぬいてくれて一生忘れられない最高の試合をすることができました。この敗退を機に来年はもっと良い成績を残してくれることを期待しています。

今(引退してから)考えてみれば、同学年の仲間やコーチの存在は自分にとって大きく、いつも支えてもらいました。それから、チームメイト、先生方にも本当に感謝しています。また、上級生の人数が少ないので下級生の力にすごく助けられました。むしろ5年生より上手かった人もいます。また、先生方には、かなりのご迷惑をおかけしました。先生方の指導がなかったら今のサッカー部はとんでもないことになっていたと思います。

最後に最もお世話になったと言える坂井監督の口癖を載せたいと思います。

「真剣だと知恵が出る 中途半端だと愚痴が出る
いい加減だと言いつばかり」

5年間ありがとうございました。

高専大会全国大会を終えて

水泳部 物質工学科4年
榊山 一規

今年度の高専大会全国大会は沼津高専が会場校でした。そのため水泳部では例年以上に練習し、東海大会、全国大会に臨みました。

東海大会までの2ヶ月程は水泳経験の豊富な部員が練習メニューを組み、部長、副部長が全体をまとめるというようにしっかり役割分担できたので、効率の良い練習ができたと思います。また水泳の準備体操、ストレッチに関するビデオを見て、けがを予防し疲れを残さないように心掛けました。土日の練習は毎年来てもらっているコーチの指導で質の高い練習をすることができました。東海大会前の一週間はタイム測定、飛び込み、ターンといった実践的な練習を行い、大会に備えました。

東海大会では豊田高専、鈴鹿高専と接戦になりました。結果は惜しくも三位でしたが、一位の豊田高専とはわずか4点差、二位の鈴鹿高専とは同点（リレー種目の点数で順位が決定）という結果で、自己ベストを更新したり、全国大会に出場を決めたりする部員も多く出ました。8

月末の全国大会につながる良い大会だったと思います。

東海大会後から夏休みにかけては、より一層練習に励みました。練習メニューの合計距離も日に日に伸びていき、夏休みの合宿に入るころには練習量がピークに達しました。合宿は部員同士が長い時間共同生活するため、親睦を深めたり、練習メニューについて多くの人の意見を取り入れたりするチャンスです。また全国大会の開催校枠を使って、普段全国大会に行けない部員も全国大会に出場できるというチャンスもありました。これらのチャンスが部員のモチベーションを上げ、激しい練習に耐えられたと思います。さらにマネージャーや女子部員が全国大会に向けてポロシャツをデザイン、発注してくれて水泳部がさらに団結できました。

全国大会には競技に出場する部員の他にも会場設営、案内のために水泳部全員で取り組みました。競技に出場した部員は沼津高専生として恥じない泳ぎをしてくれたし、サポートに回った部員も競技に出場した部員に負けないくらい一生懸命働いてくれました。水泳部員や事務、顧問の先生方の協力のおかげで全国大会は成功したと思います。

このような特別な年に部長を任されたことにプレッシャーもありましたが、高専生活で1番充実した1年を送ることができたと思います。

全国大会出場を通して

バドミントン部 物質工学科2年
米山 沙弥

今年のバドミントン部は昨年に引き続き、東海大会において女子団体・ダブルス・シングルスで優勝し、2年連続の全国大会出場を果たしました。また、全国大会では女子シングルス3位という成績を収めることができました。

私は高専に入学して小学生からやっていたバドミントン部へ入部しました。女子は部員が少ないため男子の先輩方と共に熱心に練習に取り組んできました。しかし、昨年度の高専大会が終わり、頼りとしていた4年生が引退してしまったことにより、上級生が減少し、それと共に部員のモチベーション低下が起こったため、部活では人が集まらず、思うような練習を行えない日々が続きました。私自身も不安が募る一方でなにもすることができない状況でした。しかし、何度も部長を中心に話し合いを行い、一人一人意識を高めていくことを心がけました。高専大会のメンバーが決まってからは練習に力が入り、部活の活気を取り戻すことができました。これを通して団結力も深めることができたのではないかと思います。

東海大会の団体戦では、昨年と同様、接戦の試合が続

きましたが、私は絶対に勝ちたいという強い気持ちで臨んだため、自信を持って戦うことができました。自分の試合が終わってからは必死に声を出して応援しました。団体戦というものは仲間の応援により、自分の持っている力の何倍もの力を発揮することができます。優勝が決まった瞬間は抱き合って喜び合いました。2年連続優勝という成績は仲間を信じて戦った証であると思います。私は、この試合を通して仲間の大切さを改めて感じました。

全国大会では、無心で臨んだ昨年の試合とは違い、団体戦では、勝たなければならないというプレッシャーで自分自身を追い込んでしまい、思い通りのプレーができませんでした。自分の精神面の弱さに気づき、とても悔しい思いをしました。しかし、仲間の支えにより、気持ちを入れ換えてダブルス・シングルスに臨むことができました。シングルスでは、団体戦で負けた相手に勝ち、3位という結果を残すことができ、とても嬉しく思いました。

今回の高専大会を通して、私はまた一歩成長したのではないかと思います。来年度は更に高いレベルを目指し、周りの期待に応えられるよう、日々の部活に熱心に取り組んでいこうと思います。最後に、応援に駆けつけてくださった先輩方、家族、先生、支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

沼津高専のたすきを繋ぐ

陸上部 物質工学科3年
望月玲於

我々陸上部は短・中・長距離走・走り幅跳び・投擲などの種目から成っています。その中で、私は長距離走を担当しています。現在は自主的なものですが、昨年までは、早朝練習にも参加していました。

さて、昨年11月7日に、静岡県高等学校駅伝競走大会が、掛川の小笠山総合運動公園（エコパ）にて行われました。この駅伝では、42.195kmを7人が繋いで走ります。私がこの大会に出るのは3回目でした。

1回目、2回目とも沼津高専陸上競技部のチームとして参加してきましたが、今回は、中・長距離走を担当する部員が不足していたため、他校との混合チーム（沼津高専・沼津中央・田方農業）となってしまいました。たとえ混合チームでも、自分にとっては最後の高校駅伝でしたので、夏休みに入ってからはこの大会に向けて練習を重ねてきました。

エコパ周辺は寒さが心配でしたが、駅伝当日は暖かく、比較的走りやすい気候でした。上位入賞を期待できるチー

ムではありませんでしたが、「ひとつのたすきをつないでいく」という強い気持ちで互いに励ましあいながら、力の限りを尽くすことができました。また、他校との交流の中で、自分の実力を知ることや少し違った視点で練習に取り組むことができました。

私は高専に入り、初めて陸上をしました。中学から引き続き、という部員が多い中、その差は大きいものを感じました。

私の陸上部での練習の中で、夏休みの合同合宿は特に記憶に残っています。1年次の合同合宿は、長野県の富士見高原で行われました。この合宿では、今までに走ったことのない、3泊4日で120kmという長い距離を走りました。何度も挫折しそうになりましたが、仲間からの励ましやアドバイスに支えられ、厳しい練習に耐えることができ、その後の自信に繋がりました。このように練習を繰り返して、長距離走者として成長することができたと感じます。

私はたすきを繋いでいくという楽しさを、駅伝を通して知ることができましたが、自分の限界に向かって走ることの楽しさ（苦しさでもありますが）も、この長距離という競技を通じて知ることができました。

ぜひこの楽しさを来年度以降も絶えることなく続けていって欲しいと思います。

行事・コンテスト・その他イベント

体育祭

充実した体育祭を

体育祭実行委員長 電気電子工学科4年
渡邊頌也

毎年、慣例となっていた年2回の体育祭が1回になると聞かされ、不安と驚きとともに体育祭の活動が始まりました。

体育祭の前に、4年生は2泊3日の工場見学があるため、2、3年生の補佐に支えられながら準備に取りかかりました。物品の借用やタイムテーブルの作成など順調に進みましたが、あいにく前日・当日の天気予報は雨で私たちは晴れ・雨両方のケースを想定しなければいけませんでした。

体育祭当日、かろうじて天気は小雨となりテニスコートは使えない状態でしたが、グラウンドは水はけが良くドッジボール以外の競技は実施可能でした。役員・スタッフは早朝5時半に体育館に集合し、テントの設置やグラウンドでのコート作りなどの準備に取り掛かりました。1年生は1人も遅刻することなく、機敏に働いてくれ無事体

育祭を開催することができました。

今年の体育祭は、ソフトボールとバスケットボールに対して部活ハンデを課しました。ハンデを背負った野球部とバスケ部には申し訳なかったのですが、一般の学生からは楽しめたという声を聞くことができ、挑戦してみたことに満足しています。

昼種目としては、去年に続きパン食い競争、クラブ対抗リレーやクラス対抗長縄跳びを行いました。パン食い競争には毎年多くの方が参加していただき大変な盛り上がりでした。クラブ対抗リレー・クラス対抗長縄跳びには学生会の方々・教員・体育祭の先輩方など多くの方がサポートしていただき、難もなく無事実施できたことを有難く思います。

沼津高専の体育祭は他の学校とは違い“運動会”ではなく“球技大会”になっています。開催日は平日で各種目・競技の場所があちこち異なり分かりにくいのですが、学生が元気に身体を動かし、クラブ・クラスの団結している姿を保護者の皆さまに見ていただけたら、と思います。

今年から年1回の体育祭となり、私も委員長の仕事に戸惑うこともありましたが、懸命にサポートしてくれた役員の方、またスタッフとして立候補してくれた1年生、5年生の先輩方に感謝の気持ちを伝えたいです。

そして、協力してくださった先生方・学生会と審判の仕事は快く受けてくださった各部の皆さま、ありがとうございました。また、多くの人の熱意と協力を得て自分自身、全体を見る大切さや指導の難しさを学ぶことができました。

高 専 祭

第45回高専祭を終えて

高専祭実行委員長 電子制御工学科5年
佐藤正英

今年の第45回沼津高専高専祭は11月6日（土）から11月7日（日）にかけて行われました。今年の高専祭は「華」というテーマで行いました。このテーマにしたのは、まず大きな目標として、高専祭を今まで以上に盛り上げ、華やかなものにしたいという思いがあり、この高専祭を通じて後輩に何か残していきたいなど、様々な思いを込めてこのテーマに決めました。また、今年度は各部署に目標を持って活動をしてほしいと考え、自分たちの部署の目標となる花言葉を持った「華」を決めてもらいました。高専祭当日は各部署が自分たちの決めた花言葉を目標としてしっかりと活動し、小さい子供から大人まで、多くの人を楽しめた、とても良い高専祭になりました。

今年は学生会顧問の先生から、なるべく多くの学生が高専祭に参加できるような企画をしてほしいという課題が出されました。昨年度はギネスに挑戦する、として行われたこの課題への取り組みとして、今年度は全学生の集合写真を撮るという企画を計画しました。昨年度は一般の人にも参加してもらっていたため、まとめるのに時間がかかったことを考慮し、今回の高専祭のテーマであ



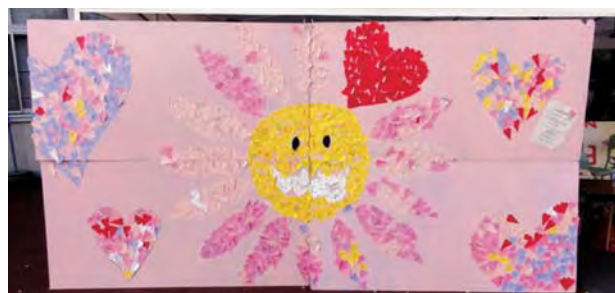
今年の体育祭は1回になってしまい5年生には残念でしたが、2回分の充実感を味わえていただけていたらと思います。

来年の体育祭も是非ともご協力をお願いします。

る「華」を表現した集合写真は、学生のみで撮影するというにし、撮影も高専祭当日ではなく、高専祭準備日に行うことになりました。準備時間が十分に取れなかったこともあって不安もありましたが、教職員の皆様と本部スタッフの協力によってなんとか撮影の1時間前に下書きを終え、予定通りほぼ全学生が集合して撮影をすることができました。また、高専祭も大きな事故もなく成功で終わることができました。この成功は、多くの教職員の皆様、各長、スタッフの協力の賜物だと感じています。本当にありがとうございました。

高専祭を通して多くの人をまとめることの大変さ、計画を実行に移すことの大変さ、仲間の大切さなどを学びました。高専祭では、スタッフ活動を通して学校で勉強しているだけではわからない多くのことを経験し学ぶことができます。そこには、新たな出会いがあり、自分から行動する自主性や協調性の大切さなどを見つけられます。また、一生懸命に行ったことに対して得られるものはとても大きいと感じます。高専祭に関わったことの無い人は1度でいいので、なんらかの形で高専祭に関わってみてください。そうすれば、高専祭が貴重な体験のできる、すばらしい場所であるという事をわかってもらえると思います。

最後にこのようなすばらしい形で、第45回高専祭実行委員長として任務を遂行できたことを、本当に嬉しく思います。これから高専祭がさらに盛り上がり、より活気のある祭になることを期待して次の代に託したいと思います。関係してくださった皆様、本当にありがとうございました。



3 年 合 宿 研 修

3年スキー合宿研修報告

3学年担任(学年代表) 芹澤弘秀

1月31日から2月2日まで2泊3日でスキー合宿研修が行われました。昨年までは岐阜県高山市での3泊4日の研修でしたが、遠方のため2日間が移動に費やされ、病気・怪我への対応が難しいという問題があり、以前から見直しの必要性が検討されていました。特に今年度は、学校方針に基づき研修場所を近隣に変更し、より安全性の高い研修となるよう準備を始めました。学生の反対署

名活動等、様々な問題を解決していく必要がありました。3年担任、学生委員会、学生係が一丸となり、学生にとって最善かつ実り多き研修となるよう、検討を重ねてまいりました。その結果、ふじてんスノーリゾート(山梨)で従来通り2日間のスキー教室を行い、宿泊場所の国立中央青少年交流の家(御殿場)では就職・進学に関する研修をクラス別で二晩、全体では半日実施するという密度の濃い内容となりました。場所等の大幅な変更に伴い、現地調査や打合せ、行動シミュレーションを何度も入念に行い、不安を抱えながらも実施日を迎えました。

初日と2日目は快晴の中、200名弱の学生がスキー教室に参加しました。ゲレンデの状態も良く、多くの学生がスキーを楽しんでいる様子でした。初心者でも2日目には中級コースを滑っていて、上達の早さに感心しまし

た。就職等に関する研修も予定通り実施でき、特に3日目の全体研修では教務主事、学生主事、専攻科長からタイムリーなお話を聞くことができました。就職・進学での苦戦状況が続く中、学力向上や広い視野が学生に求められており、4年での心構えを意識する上で非常に有意義なお話であったと感じます。3日間の研修を通し、学生達は①己に挑戦する、②高専生活の意義を見直す、③親睦を深める、という目的を達成できたと思います(研修の様子は学生の感想文をご覧ください)。改善点は多々ありますが、大きな怪我や病気もなく無事研修が終了し、安堵の気持ちでいっぱいです。

最後に、今回の研修にあたり、保護者の皆様、関係教職員の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。特に、研修場所の変更を理解してくれた学生諸君に感謝します。

スキー研修に行って

制御情報工学科3年 鈴木洋輔

今回のスキー研修は前日まであまり気乗りがしませんでした。それは、以前スケートをやった際、全然上手くいかず、氷上・雪上の競技に苦手意識を持ってしまったからです。しかし、実際はインストラクターの方の指導もあり、また初心者コースの班だったこともあって、自分に合ったペースで少しずつ上達することができました。

スキー経験がなかったため、1日目こそ歩き・停止等の基本的なことしかやりませんでした。2日目には何度もリフトで上がり、3種類のコースでスキーを楽しむことができました。滑り方も単純に徐行するだけから、蛇行して速度を上げすぎないようにするなど、自由でできることも増え、スキーの楽しさに目覚めました。

また、スキー研修を通して様々な仲間ができました。レッスン中やリフトでの移動時だけでなく、昼食の時などにも初対面の仲間と話し、親睦を深めることができ、また、1・2年の頃の寮の仲間と久々に会うこともでき

ました。御殿場の中央青少年交流の家では、夜の自由時間に話をしたり遊びを工夫したりし、交流が薄かった友人たちとも親睦を深めることができました。現在、寮を出ている私ですが、久々に友人達と食事、風呂、睡眠をとることができることができてとても楽しかったです。クラス別研修や3日目の説明会では近い将来必要となる経験・知識を得ることができました。普段のホームルームの時間にはできない進学や就職についての講習を受け、有意義な時間を送ることができました。

最後に、とても充実した3日間の研修に参加できたことに感謝し、研修で学んだことをこれからの学生生活に活かしていきたいと思います。



ロボットコンテスト2010

ロボコン2010と沼津のロボコン部

ロボコン部顧問 望月孔二

高専のロボコンは正式には「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」という大会名です。

競い合いのもっとも大事なことはアイデアの創出ですが、実際の動作を見て評価されますから、動かないロボットでは評価はありません。一方で、ロボコンの課題は年

とともに困難なものになってきており、たとえば、おとしからは二足歩行を前提とした競技が行われています。こうした条件を考えると、ロボコン部の主力が3年生という若いチームで臨む沼津高専は、困難な挑戦を続けていると言えます。

今年の競技の名前は「ロボ力車(リキシャ)」であり、人を乗せた台車をロボットが曳きながら鍵穴に鍵を入れてゴールするという競争でした。

ルールが提示された4月末から部員たちはミーティングを重ね、2つのチームを編成し、中間試験後の6月中旬に2種類のアイデアシートをNHKに提出しました。アイデアを練るためには、本来ならさまざまなアイデア

を戦わせたいのですが、二本足歩行のロボットを作ることで正直精一杯でした。

登録が終われば、あとは製作です。大会で活躍したいなら、ロボットを何回も作り直すことが必要です。1回目の設計から完璧なものを作るのはもともと無理ですから、設計・製作・ダメ出しのループをできるだけ繰り返すべきなのです。部員たちは、平日はもちろん、夏休中も合宿してかなりの時間を使って製作に励みました。思えば、歩行がテーマになってからの過去2年間も歩行の実現に苦戦し、殆ど時間の余裕がありませんでしたが、今年もその状況を打開することができませんでした。そして、形ができたのは、殆ど大会の直前と言える状況でした。

大会は豊田市で行われました。沼津の2チームは、歩行がうまくできず、併せて1勝2敗という成績でした。しかし、彼らの名誉のために申し上げますが、少なくとも1体のロボットは沼津高専内をきちんと歩くことができていました。「鍵の保持方法を変更したら有利ではな

ロボコン部

ロボコン部部长 電子制御工学科3年
野澤雅利

昨今の技術発達で常に新しい技術を求められていく中、今年度のロボコン部ではいろんなことがありました。

まず、今年のロボットの設計段階ではアイデアを出すために新しい方法を試したり、本格的に3DCADを使おうとしてみたりと、とにかく新しいことに挑戦しました。夏の合宿では、毎日パーツを製作し、その段階でも新しい種類のギアを使うために何回も試作を繰り返しました。そうしたこともありロボット自体は例年よりも早めに作ることができました。しかしそうした結果がありながらも、経過は決して良いものではなく頼んでいたパーツの納入が予想よりも遅れるなどという苦労も多々ありました。

そうした今年のロボコン部でしたが、ロボットを製作するほかにもいろんな苦労がありました。毎年、NHKのロボコン大会が終わると、活動の主体が2年生に受け継がれます。そうして始まった今年度のロボコン部の船出は散々なものでした。その大きな問題は、部長をなかなか固定できなかったことです。紆余曲折があり、結局私が部長になりましたが、部の中にはグイグイと人を引っ張る力を持った人や、ロボットの技術に詳しい人がいる中で、話し合いの中で私が選ばれることになりました。

いか」と考えて、大会当日にぶっつけ本番で変更したところ、重心位置がずれ、歩行のバランスまでずれてしまったのでした。

大会が終わったら、次を目指した活動が大事です。何度となく会合を開き、当面の技術力アップに向けた活動をどうするか話し合いました。そんな中で、幸運なことに、電子制御工学科の青木先生が、今年度の空き時間にロボコン部の学生指導に加わってくれました。今、ロボコン部は、基礎技術習得に向けて青木先生が出題の課題に取り組んでいます。ステップアップ式の課題であり、技術力が確実に向上すると考えられます。

また、この春休みは、関東地区高専のロボコン部が主体となって実施している「交流ロボコン」というイベントに参加して、ロボット技術を磨くとともに、他高専のロボコン部の活動について交流してきます。

このように、今年度の悔しさを無駄にしないよう、次に向けて頑張っています。ぜひ今後ともよろしくご声援をお願いいたします。

どうして選ばれたか理由は良くわかりません。私の知識はそんなに深いものではありませんし、リーダーシップを考えても、『こんな自分で大丈夫か?』なんて疑問は常にありました。それでも、選ばれたからにはそんなことを言っていられないことも確かでした。こうした紆余曲折や、私たちの世代のロボットをどうやって作るか話し合ったことは、しかし、例年よりも私たちの学年の結び付けを強めたように思います。本当に何でも話し合える仲となり、それ以降は例年よりもスムーズに活動できたように思います。今となっては、こうした出発の遅れが、後々まで響いたことが悔やまれます。

私自身としてはロボコン部の部長に選ばれた後はとても大変でした。3年になって学校の課題も多くなっていく中で部活に出てロボットを作り続けました。春は勉強をしながら設計し、夏は汗を流しながらパーツを作り、秋になる頃にはロボットは完成しました。(完成したときの感動は言いようのないものでした。) その中でいろんな人の助けを借りました。先輩、先生、友人、いろんな人に感謝しています。NHKロボコンの結果は、残念なものでしたけど、ロボットが好きでロボコンに憧れていた自分が沼津高専でロボコン部部长にまでなって、夢がかなったようなものです。後悔することはたくさんありますが、それでもやりきった達成感のほうが大きかったです。

最後にこれまでお世話になった人にこの場を借りてお礼を言いたいと思います。

『ありがとうございました!』

第6回沼津高専英語スピーチコンテスト

結果とご報告

7月21日(水)、本校「第一視聴覚教室」において、「第6回校内英語スピーチコンテスト」が開催されました。以下がその結果とタイトルです。

- 1位 宮川 綾音(M2) My Passion Like Chocolate
 2位 赤沼 亮介(S4) Music club and me
 3位 片山晃次郎(D3) The Golden Experience
 特別賞(校長、事務部長より)
 宮田 昌輝(D4) We can move mountains

1位の宮川さんは、9月25日(土)に沼津市立図書館

で開催された「第62回 静岡県高等学校英語スピーチコンテスト東部予選」と11月14日(土)に岐阜高専で開催された「第4回東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト」に本校代表として出場しました。残念ながら、県大会および全国大会出場権は得られませんでした。本校代表として、堂々とした立派なスピーチを披露しました。まだ2年生ということもあり、今後の活躍が大いに期待されます。

なお、来年度の「東海北陸地区高専スピーチコンテスト」は本校での開催となります。出場者の選考を兼ねた「第7回校内スピーチコンテスト」は学校行事の大幅な変更に伴い、8月下旬(夏休み期間中)の実施を予定しています。今後とも、たくさんの学生の参加についてご協力をお願いいたします。(英語科)

第6回沼津高専英語スピーチコンテストに参加して

機械工学科2年 宮川 綾音

昨年度に続き、2度目となる校内スピーチコンテストに参加した私は、思いがけず「優勝」というご褒美をいただきました。

幼い頃から英語に親しんでいる人や海外で英語を学んだことのある人と、中学の授業から英語を学びはじめた私では圧倒的な力の差があると感じ、今年度は前回のり

ベンジと考え一生懸命練習をしました。ですので、結果が出せてとても嬉しかったです。

このコンテストに参加したことで私は多くの事を学びました。まず、英語で話す事の面白さ、誰かに自分の思いを伝える事の楽しさを味わうことができました。

また、他の人のスピーチを聞き、技術や表現方法を勉強することができました。

この経験を生かし、来年度、もう一度スピーチコンテストに挑戦したいと考えています。そして、成長した自分をより多くの人に見てもらえるように頑張りたいと思います。

スピーチコンテストに出て

制御情報工学科4年 赤沼 亮介

私は1年生のときからスピーチコンテストに毎年出場しています。この4年間で私に何が足りないのか把握することができました。それは、人に何かを伝える時に必要なスキルの数々です。

私は1年生の時、少し英語が得意ということで、スピーチコンテストに出場することにしました。もちろん結果は良いものではありませんでした。英語が少し得意という動機だったため、スピーチをすることで何かを伝えたいという気持ちがなかったからです。元々私は人に何かを伝えることが下手なので、何かを伝えようという気持ちすらなかった私のスピーチは聞くに堪えないものだったと思います。今思い出しただけでもゾッとします。

スピーチコンテストが終わっても、当時の私は何がいけなかったのか理解できませんでした。そのため、2年の時も同じようなスピーチをしてしまいました。ここでようやくスピーチをするのに一番重要なポイント「何を伝えたいのか」ということがしっかりしていないという

ことに気付くことができました。このポイントはスピーチだけではなく、本や音楽、芸術ひいては日常の会話にも通用することだと思います。そのことに気が付いたことだけで大きな進歩だと思い2年間は無駄ではなかったと思うことにしました。なぜなら、そのことに気が付いたことによって音楽を聴いたり、映画を観たり、本や漫画を読んだりしたときに、これらは何を伝えたいのかを考えることにより、自分の役に立つ考え方を多く受信することができるようになったからです。

3年になり、私はまたスピーチコンテストに出ようと思いました。私は当時好きなロックバンドの影響でキング牧師やマルコムX、チェ・ゲバラなどの指導者に興味を持ちました。彼らは純粋に他人のために命を懸けて世界と戦った人たちです。私は彼らの行いに感化されました。そして、現在私はどのような国にいて、どのような問題と対面しなくてはならないのかということを考えるようになりました。そして、そのことについてスピーチをしたいと思いました。結果は3位でした。私はこの時、自分には表現力が足りないと実感しました。それは文章力や身振り手振り、口調などです。

4年になり、私は表現力を向上させたいと思い、スピーチコンテストに出場することにしました。幸運なことに

今年はジム先生という先生が指導して下さることになりました。ジム先生は文章をどのように組み立てて、印象にのこるストーリーにすればよいか、強く主張したいポイントをどのように口調や身振りで印象付ければよいかなどたくさんのスキルを伝授してくださいました。結果は2位でした。私は本番に緊張してしまい、思うように体を動かせなかったからです。

私は来年もスピーチコンテストに出ようと思っています。来年こそは1位をとりたいと思います。しかし、それは一番重要なことではありません。私はスピーチコン

テストに出ることで一番重要なことは、将来自分の役に立つスキルを得ることができるということだと思っています。社会に出たとき、自分がやりたいことをするためには他人の力が必要です。そんなときに、他人を説得するためには、やはり自分がなぜそれをやりたいのかをしっかりと伝える必要があります。その時にスピーチコンテストに出ていた経験が活かされると思います。

この学校にはスピーチコンテスト以外にもたくさんの自分を成長させる企画があります。なので、皆さんも積極的に参加すると良いと思います。

その他イベント

イギリス語学研修報告

英国語学研修報告

校長補佐（特定業務担当） 大久保 清 美

現副校長（教務主事）の大島先生が1996年以来行ってこられたMSOE (Milwaukee School Of Engineering) における沼津高専生のための海外研修が、前年度をもって諸般の理由により中止となりました。今年度からこの業務を引き継ぐに当たり、先ず私がしなければならなかったことは、新しい研修先を探すことでした。そこで、従来MSOE研修をサポートしてもらっていた旅行者にいくつかのプログラムを提案してもらい、その中から選んだのが、今回の「英国語学研修&異文化体験」プログラムでした。オーストラリアやニュージーランドでのプログラムも提案されましたが、異文化体験という観点からは、この3カ国の中ではイギリスが最も有益だろうとの判断からでした。

さて、このプログラムに応募してくれた学生は、1年生1名、2年生3名、3年生1名、4年生2名の合計7名でした。旅行者によれば、当初は最低でも10名の参

加者がなければ研修旅行は成立しないとのことでしたが、交渉の結果、なんとか7名での研修実施に漕ぎつけました。これら7名の学生に対しては、5月末に渡航手続き説明会、7月中旬に出発前最終オリエンテーションを行うとともに、学校独自の支援策として、6月から7月にかけて合計5回、ネイティブの非常勤講師による英会話の事前研修を行いました。

引率教員には物質工学科の渡辺敦雄先生が自ら立候補してくださいました。先生のご年齢を考えれば、体力的には決して楽ではない仕事を自ら進んでお引き受けくださり、感謝の念に堪えません。また、研修報告書にあるとおり、先生はイギリスから毎日、日本にいる我々にメールで日報を送ってくださいました。おかげさまで我々は学生たちの様子が手に取るようになり、大変安心していられました。渡辺先生、ありがとうございました。

参加学生たちの感想は研修報告書にあるとおりです。皆それぞれ、大変心に残る体験をしたようです。9月に行った報告会では、イギリスにも、英語学校にも、ホストファミリーにも皆おおむね満足したとのことでした。何よりだったと思います。しかし一番良かったのは、言うまでもありませんが、全員が無事に研修を成し遂げたことでしょう。皆よくがんばったと思います。お疲れさまでした。

日本機械学会優秀講演表彰受賞

更なる飛躍への挑戦

制御・情報システム工学専攻1年
早 苗 駿 一

沼津高専では、5年次になると各研究室に配属され、卒業研究として研究活動が始まります。私も昨年度、研究室に配属されましたが、最初は何から手をつければ良いかわからず、手探りの状態でした。これまでの勉強は、用意されている「正解」の導き方を身に付けることに主眼を置き、その導出がスムーズに出来るようになることが目標であったように感じます。それに対して研究は、

各分野における最先端を開拓することが目標であり、「正解」は既知ではありません。当然、自ら考え進むことが要求されます。私は、これまでに学んだ事を実践の場で活かすには知識を身に付けるだけでは不十分である、という現実と直面しました。多くの時間を費やすもの思うように事が運ばず、何日も悩んだこともありました。しかし、次第に「思い通りの結果が出せなくてもいいからまずはやってみよう」と考えるようになりました。取り組んだことの大半は失敗が当たり前ですが、大切なのは失敗の原因を追求・考察し、次の成功に繋げることでありと気付きました。それまでは、成果が出せない自分に悩み、挑戦することを避けていたのかもしれませんが、しかし、考えが変わってからは研究活動への姿勢が変わったように思います。

そんな私も専攻科へ進学し、もうすぐ研究活動を始めてから2年が経ちます。大学では研究2年目という、修士課程1年次(大学院の1年目)に相当します。それらの人達と同等に研究を進めることは難しいですが、同じ研究室の仲間と協力し、様々な議論を交わしながら積極的に取り組んでいます。

私は現在、気流の温度と速度の同時計測システムのデジタル化に関する研究に取り組んでいます。情報・制御分野で用いられる組み込みデバイスを流体力学分野に適用し、従来の計測方式では出来なかった高精度な熱流体計測システムの実現を目指しています。この研究は、FPGA(Field Programmable Gate Array)という組み込みデバイスの完全並列処理機能を利用したのですが、これは電子制御工学科と専攻科において、機械、電気・電子、情報・制御分野を横断的に学修することによって実現された新しい計測技術の開発といえます。この研究で得られた成果について、何度か学会発表を行いました。

その中の一つとして、2010年10月30、31日に山形大学で開催された第88期日本機械学会流体力学部門講演会において研究発表を行いました。この発表に際してフェロー賞と優秀講演表彰という表彰に応募し、事前の論文審査による選考を通過したため、通常の発表に加え、優秀講演セッションでも発表を行いました。この表彰の応募資格が30歳以下のすべての機械学会会員となっており、自分の周りは大学院生や社会人の方々でした。大学院生の人達の中で自分が受賞することは難しいと思っていましたが、優秀講演表彰を受賞することが出来ました。本研究で開発している計測器は、異分野技術の融合による新しい手法に基づいており、従来に比べ計測精度の大幅な

向上と同時に操作性の改善を達成したことが高く評価されたのではないかと考えています。このような名誉ある表彰の受賞は、大庭教員の御指導に加え研究室のメンバーと議論し、協力していたからこそその結果だと思えます。専攻科生であっても、修士・博士課程の人たちと同じ世界で競い合う機会があることに感謝しています。学会発表を通じて学術的・工学的価値とその波及効果について十分考え、使命感を持って日々研究に打ち込むことが大切であると強く認識しました。これからも、自己研鑽を積みながら、研究室一丸となって研究活動に取り組んでいきます。

研究の話題から外れますが、2011年3月に高専機構が主催する海外インターンシッププログラムの一環としてスイスでの就労体験が控えています。研究活動を通じて培った探究心・考察力を発揮し、学会発表や海外での活動という貴重な機会を最大限に活かして更なる飛躍に挑みたいと思います。



第3回 高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ 3次元デジタル設計造形コンテスト入賞

学生の「3次元デジタル設計造形コンテスト」奮闘記

機械工学科 山中 仁

12月11日、12日に長野工業高等専門学校にて「第3回高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ」(副実行委員長柳下校長)が開催されました。本校を含め多くの高専では産業界のニーズに応えた機械系技術者を養成するために3D-CAD(製品を3次元的にコンピュータ画面上に表示させ、設計を行うソフトウェア)のような新技術を用いた、より良い設計製図教育の方法を研究・実践しています。このワークショップでは当初から高度な設計製図教育の一手法として3D-CADを用いたPBL学習(Problem Based Learning)に注目しており、ワークショップの2日目にはPBL学習の成果を発表する学生の「3次元デジタル設計造形コンテスト」が開催されています。PBL学習とは問題解決型学習のこ

とで、学生が学んだ知識、異なる価値観、専門知識を取り組み、課題解決の糸口を見出す実践型の学習法です。

今回のコンテストには沼津高専から機械工学科の3年生3名、4年生1名の合計4名の学生が参加しました。今年度のテーマは「ビーズ・ポンプ」です。直径2mmほどの小さなガラスビーズ200ml(約300g)を吸い込み側タンクからチューブを使って1m先の吐出側タンクへ水平に移送するポンプを設計・製作し、ポンプの性能競技(移送重量、所要時間)と代表者1名による設計コンセプトのプレゼンテーションによって順位を競います。また設計には3D-CADを、製作にはABS樹脂を用いた3Dプリンタ(Rapid Prototyping)を用いることが課せられています。

本校チームは10月初旬より活動を開始しました。最初は模造紙にコンテストまでの工程計画や設計課題、設計仕様を書き出すところから始めました。また疑問に思ったところはインターネットを使って調査したり、サンプルのビーズを使って予備実験を行ったりしてポンプ設計に必要なビーズの仕様や挙動、さらには使う材料の物性を確認するための実験や計算を行い、設計する上で必要

な条件を一つ一つ解決していきました。ある程度性能の目安ができたところで各自の考えたアイデアを模造紙に書き出し皆で協議し、一つの構想図にまとめました。さらにまとめた構想図をもとに本校で設計製図教育に用いているSolid Worksという3D-CADソフトに設計情報を入力して体積計算や干渉チェックを実行し、検証図面およびポンプ試作用データを作成していきました。ポンプの試作・製作（造形）には昨年秋に本校テクノセンターに導入されたDimension Eliteという最新の3Dプリンタを用いています。次に試作品によりポンプの性能や設計・製造上の不備などの様々な問題を検討し解決しながら最終的な設計変更を行い、自分たちの目標通りのポンプを何とか仕上げました。コンテストは参加学生の多くが4年生、5年生という状況で苦戦も予想されましたが、



製作したビーズポンプ

本校チームは本来の実力を十分に出し切り、見事に第4位（16高専中）、Solid Works賞を受賞いたしました。

4名の学生は連日のように模造紙やPC、最新機器である3Dプリンタにと奮闘していましたが、忙しい中でも自ずとP (Plan) -D (Do) -C (Check) -A (Act) という今後の社会生活において基本の流れを経験し、有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。またコンテスト間際に突然3Dプリンタが不調になったり最終造形品が突然破損したりするなどの様々なアクシデントに見舞われつつも、何とか皆で一丸となって協力して問題を解決し学生同士の結束力が更に高まったことも大きな収穫であったと思います。

最後に本ワークショップ参加にあたりご支援頂いた関係者の皆様に感謝いたします。



右から柳下校長、M4森田、M3大澄、岩崎、深澤、M科山中教員

第1回 原子力・エネルギーに関する課題研究コンクール優秀賞受賞

「第1回原子力・エネルギーに関する課題研究コンクール」優秀賞を受賞

物質工学科 渡辺 敦雄

2010年12月26日（日）、東京大学工学部2号館（東京都文京区）において開催された文部科学省主催の「第1回原子力・エネルギーに関する課題研究コンクール」全国大会において、本校は優秀賞（第2位）を受賞した。以下に概要を報告する。

受賞した本校チームは、物質工学科3年生9人（池谷祐貴、花城拓史、中根大樹、鈴木康平、前田恭吾、窪田宰明、船津大輔、中村龍貴、勝亦雄太）によるアドホックのプロジェクトチーム（写真1）であった。

学生たちは6か月間、時に夜遅くまで積極的かつ精力的に課題研究に取り組み、「原子力発電システムに関する安全設計を、他産業へ展開すべきである」との趣旨をテーマにして研究と研鑽を重ねた。この間多くの教員のご指導を受け成果に結びついたといえる。学生の快挙に敬意を表し改めて関係各位にお礼を申し述べたい。

1. コンクール目的

高等学校（中等教育学校の後期課程含む）及び高等専門学校（中等教育学校の後期課程含む）の生徒を対象に原子力を含めたエネルギーに対する理解とその役割について認識を深めることを目的として、生徒自らが原子力を含めたエネルギーについて課題研究活動を行い、その活動で得た成果をまとめた課題研究ニュース（壁新聞）を制作し、全国大会で発表する。

2. コンクール工程

- (1) 2010年6月：文部科学省に、応募申請書類を提出
- (2) 7月：全国で33校が、書類審査で合格。コンクールに参加
- (3) 8月：大阪で33校全体合宿集会に参加。もんじゅ見学、壁新聞の作り方、プレゼンテーション方法および原子力基礎講義など受講。また同月、浜岡原発見学、東芝および三菱重工展示館見学
- (4) 10月：東北大学大地教授による「エネルギー概論」受講
- (5) 11月5日：壁新聞作成。作品提出（写真2）
- (6) 11月26日：本課題研究ニュースについて審査が行われ、本校は評価が高く上位8校に入選し、プレゼンテーション資料の作成に着手
- (7) 12月12日：沼津消費生活展に壁新聞を出展（写真3）広報活動を実施
- (8) 12月26日：東京大学において全国大会が開催され、

上位8校の研究成果のプレゼンテーション（写真4）が行われ文部科学大臣賞及び優秀賞が決定

3. コンクール結果：受賞校

- (1) 文部科学大臣賞 愛媛県立弓削高等学校（愛媛県）
- (2) 優秀賞 沼津工業高等専門学校（静岡県）
- (3) 優秀賞 福島工業高等専門学校（福島県）

4. 今後の展望など

- (1) 最優秀校：愛媛県立弓削高校との差



写真1：表彰記念写真とプロジェクトメンバー



写真2：壁新聞作品

本校物質工学科3年生9人チームは、文部科学大臣賞を逃した。全国大会での講評では、「原子力の安全設計をテーマにした壁新聞とプレゼンテーションとも優秀であった」と評価された。しかし、最優秀校の愛媛県立弓削高校との差は「積極的な広報活動」であったと言わざるを得ない。

弓削チームは理科学研究会のメンバー4人で結成され、かつ、そのうち一人が（財）日本科学技術振興財団の研究作品＝「はかるくん大賞」＝受賞の実績もあった。さらに文化祭、第55回町展（上島町弓削地区の文化祭）、PTA集会など様々な場所での発表、テレビ出演もした。このような広範な活動実績が高く評価されたと推定される。今回の審査員が、原子力研究機構や電事連の広報部長など、半数が広報関連の有識者であったことを思えば、彼らの戦略が本校の指導教員の戦略に勝っていたと反省している。来年度は捲土重来を期したい。



写真3：沼津消費生活展での発表



写真4：研究成果のプレゼンテーション

デジタル技術検定優秀賞受賞

デジタル技術検定優秀賞受賞の報告

電子制御工学科 5年担任 川上 誠

このたび電子制御工学科5年の佐々木良介君がデジタル技術検定1級制御部門に合格しました。この部門は累計合格率が11%と非常に難関であります。彼はさらに合格者の中から実務技能検定協会が選出する「実務技能検定協会優秀賞」に選ばれました。

佐々木君の受賞を称えるとともに、合格までの道のり

を本人に書いてもらいましたので、ここに紹介させていただきます。

電子制御工学科 5年 佐々木 良介

今年度、デジタル技術検定の1級制御部門において優秀賞を頂きました。

この検定は、情報処理や制御に関する技術をデジタル技術という観点から評価しようとするもので、その試験内容は情報処理や制御に共通な基礎知識や論理回路、計測、制御理論、計算機のハードウェア、ソフトウェアなどです。5級から1級まで5つの級があり、さらに2

級と1級は情報部門と制御部門の2分野に分けられています。情報処理や制御について学んでいる高専生にとっては、自分の実力を客観的に知る良い機会となる検定だと思います。本校電子制御工学科の場合、5年生までに勉強したことを体系的に理解できていれば、1級でもそれほど難しい試験内容ではありません。1級制御部門の程度は「論理設計理論、自動制御理論、情報処理理論及び情報通信理論をよく理解し、制御システムの動作、設計、試験及び運用法をよく修得しているとともに、実務の指導ができる。」と示されています。

私がデジタル技術検定を知ったのは4年生の5月でした。寮の相方と一緒に2級制御部門を受けたことが始まりです。3年生以上になり専門科目の割合が増えていく中で、高専での学びが身に付いているか外部の試験を利用して確かめたいと思ったことが受験の動機です。そのときには協会が出版している参考書を一通り勉強しましたが、本番の試験では見たことのない問題がいくつも出題されました。その状況で問題に対応できた応用力は、

直前の試験対策ではなく、高専で地道に学んできたことで身に付いたものだと思っています。次に2級情報部門を受験したときは、自分で情報処理理論と情報通信理論を勉強しました。

2級の両部門に合格後5年に進級し、大学編入学試験も一段落したところで1級を受験してみることにしました。1級制御部門の受験に際して、特別に対策したことはありません。どのような問題が出題されるのか全く傾向が分からなかったため、今までの制御工学や計算機工学の授業内容を復習していきました。それでも8~9割は解答できたと思います。高専卒業後は大学に進学しますが、進学先でも自己研鑽する姿勢は保っていきたいと思っています。

デジタル技術検定に限らず、外部の試験は英検から専門科目に関するものまで多くあります。技能審査に合格することは学業に真面目に取り組んできた客観的な証明となるので、積極的に受けることをお勧めします。

ケニアロボコンへの技術協力

ケニアの地を踏んで

制御・情報システム工学専攻1年
長谷川 輔

2010年8月22日から9月4日までの約2週間、ケニアロボットコンテストへの技術協力の一環で、ロボット開発に関する技術的な助言と各ロボコン参加学校の技術力の調査を目的としてケニア共和国へ渡航し、現地の学生・教員と意見交換を行いました。

高専ロボコンをはじめ、ロボットコンテストは工学教育の魅力を高めるイベントであると共に、ロボットを開発する過程で参加する学生の知識や技能、問題解決能力等の向上を図る意義深い取り組みであるといえます。これは日本だけでなく、近年では世界各国で開催されており、2008年度にはアフリカ・ケニア共和国で初めてのロボコンが開催されました。

しかし、このロボコンに参加した多くの大学・職業訓

練校のロボットは、競技の主要動作に問題があり、今後の課題として各参加学校のロボット開発技術の向上が挙げられました。このような背景から、ケニアでのロボコン開催を提案したJICA（国際協力機構）より、高専機構を通じて本校電子制御工学科へ技術協力の要請がなされました。私は、昨年度の卒業研究からロボットの開発・改良、技術資料の作成等に取り組んでおり、今回はその一環としてJICAの支援の下ケニアへ渡航することとなりました。

現地では、ケニア共和国高等教育省への表敬訪問をはじめ、ナイロビ、モンバサ、エルドレッド、キスム、そしてニエリと5つの地方を巡回し、日本で開発したロボットによるケニアロボコンの競技動作の実演と要素技術に関する英語でのプレゼンテーション、質疑応答を中心とした意見交換を実施しました。当初は少人数の学生・教員への説明を予想していましたが、100人以上の参加者が集まる学校も複数あり、多くの人々とコミュニケーションをとることができました。

私自身にとっては初めての海外への渡航であり、ケニアまでの行き帰りは1人だったため不安の多い旅でした



が、実はケニアは地域によっては涼しいところがあったり、携帯電話や公共の無線LANが普及していたり、宿泊地には大抵門番がいて強盗を警戒していたりと、未知の世界での生活を通じて私は価値観や世界観をととも広げることができました。また、現地の学生は親しみやすく、今回交流した方々の内の何人かは現在でもメール等を通じて技術的な相談に対応しており、国際交流が続いています。

私はこの取り組みを通じて学んだことが大きく分けて2つあります。1つは、「高専で学んだ基礎的な知識でも、応用や工夫により社会貢献へ繋げることができる」ということです。私が開発した実演用のロボットは、本科2年次工学実験で学習するPICと呼ばれるワンチップマイコンで制御し、3年次工学実験で扱う基板加工機により製作した制御回路で構築しています。電子制御工学科で学んだ知識や経験を活かして、現地の学生からの質問に対応し、身に付けた要素技術を応用して開発したロボットでケニアの学生にとって有意義な説明が行えたこ

とは、自信に繋がり財産にもなりました。

そして、もう1つは、「技術者の本質」です。私は手を動かして“もの”をつくるのが好きで、これまで実演用のロボットを開発した時など、目的とした“もの”が完成したときに喜びや達成感を感じていました。しかし今回の渡航を通じて、自分がつくった“もの”（実演用ロボット）が“何か”（現地の学生）に貢献していることを実感したとき、更に大きな喜びとやりがいを感じました。技術者は、単にものをつくるのではなく、その先にある人や社会への貢献を見据えて行動しなければならないと思います。これから技術者として活動していく上で、とても有意義な経験をこの取り組みから得ることができたと感じています。

最後に、現地で支援して頂いたケニアJICA事務所の倉科芳朗氏・田代征児氏、貴重な機会を与えてくださった森井直治先生・大庭勝久先生、そしてプレゼン資料の作成をはじめ渡航に関する準備の手伝いをしてくれた研究室の仲間に深く感謝いたします。

退職教職員から



定年を迎えて

教養科
谷 次 雄

昭和47年に赴任して以来39年経ち、この3月で退職することになりました。沼津高専で数学を教えてきた立場から、「どのような考え方で数学を学べばよいか」私の考えを述べたいと思います。

さて、沼津高専には中学で数学が良くできたお子さんが入学していると思います。高専入学後、数学の成績がふるわないで悩む学生（保護者）が、できないのに悩まない学生も、最近増えてきたように思われます。どうすればいいのでしょうか？数学ができない学生（特に1、2年生）の中には、進むのが早すぎる、先生の説明が下手でわからない、声が小さい、黒板を写している時間がない、試験の問題が難しい、おもしろくなくてやっつけられない、等々の不満があります。

ところで高専では約半数が寮生で、1年生は全寮制ですから、勉学条件は皆同じです。多くの学生は自分なりに努力して数学が分かるようになっていきます。それで、それらの学生は次のような習慣を身につけている様子がいます。授業中教員の説明をしっかりと聞いている、宿題はきちんとやってくる、ノートの取り方はきれいで整頓されている、わからないところは授業中や放課後教員に質問する、概して辛抱強い。

高専の数学は基本的な計算力と微分積分、線形代数の基本的な概念の理解を目標としています。

大学入試のような難解な問題は扱いません。でも学生にとって高専での数学はすべて初めて習うことばかりです。これは例えると非常に明るいところから、真っ暗な部屋に入るようなものです。全く何も見えません。しかし我慢して眺めていれば目が慣れてきて、部屋の中に何があるかわかるようになるでしょう。でも、真っ暗で何も見えないからと引き返してしまっただけでは、部屋を覗くのを何度繰り返しても、部屋の中の様子はわからないのではないのでしょうか。

私の言いたいことは、我慢して眺め続けること。「数学は悩んだ時間に比例して理解できる。」学生にとってわかりやすく教師が説明できたとしても、それは部屋の外で部屋の中を説明するようなもので、学生は分かったつもりになります。あくまでもわかったような気になることです。でも、実際に部屋の中に入ってみると、思わぬ障害物だらけで転んだりします。時間をかけて目を慣らさなければ、部屋の中の本当のことは分かりません。

「わかったつもり」と「できる」の間には大きな大きな溝があります。「わかったつもり」で終わらず、溝を埋める努力をしなければ思わぬ障害物で転びます。自転車に乗れるようになるには、補助輪（教員）なしで転びながら練習するしかないのです。

古代ギリシャの数学者アルキメデスが、王様から「数学を勉強する楽な方法があるか？」と質問されたとき、「数学に王道はなし」と答えたとか。15歳にもなれば、これから自分一人で自分の力で人生を切り開いていかな

ばなりません。我々数学の教師は、数学を理解したいと願う学生、あきらめない学生には、常に門戸を開いて待つ

ているのです。



優しさにありがとう

寮監

牧野博充

平成20年度から3年間寮監として勤めさせて頂きましたが、このたび退職することになりました。寮監という未経験な分野での仕事に、多くの不安を抱きながらの勤務でしたが、校長先生はじめ、先生方にご支援とご協力を賜り、無事勤めることができました。特に寮務主事の久保清美先生、遠藤良樹先生、寮務関係職員の皆様には、大変御世話になりました。ありがとうございました。

寮監という仕事に就くことが決まったとき、私は寮がどのように運営されているのか、関心がありました。実際寮生に接して驚いたのは、規律正しく整然と行われて

いる活動でした。寮生会を中心とした自治の力を、多くの場面で見ることが出来、とても感動を覚えました。

寮では、多くの行事が行われますが、なんと言っても寮祭が一番印象に残っております。前夜祭や広場での活動、各棟の知恵を絞ったパフォーマンスやイベントは楽しいものでした。出店で食べ物もおいしくいただきました。寮祭最後の「練り」は、水を浴びず濡れになって大変でしたが、寮生と一緒に盛り上がり、一体感を感じ、歳を忘れさせてくれました。

3年間色々なことがありましたが、心に残っているのは寮生の優しさです。暑い夏の日、作業をしている私に「先生、お手伝いします」と助けてくれた寮生や、秋、落ち葉を一生懸命拾い集め広場の清掃をしてくれた寮生。そんな思いやりにもいつも助けられて、心が暖かくなりました。このような素晴らしい寮生に出会えて、沢山のパワーをいただきました。3年間本当にありがとうございました。これからの君たちのご活躍をお祈りいたします。



教えるということ

物質工学科

渡辺敦雄

1. はじめに

民間会社勤務を経て2005年度から本校に着任し6年間、着任時は十分な長さで理解していたつもりですが今は短く感じます。2000年から2005年まで神戸大学客員教授としての経験はありますが、本格的な教員生活は人生でこの6年間だけです。その間、一貫して野球部顧問を続け課外活動は手を抜くことはありませんでした。

会社人間が、教員として多くの蹉跌を超えて6年間を感じたことを記して教員はどのようにあるべきかを自省し参考に供したく存じます。

2. 教えるということ

教員は学生を教える立場である。教育とは「教える」という意味で使われるが、ノーム・チョムスキー(MIT教授：言語学者)は、「教育とは、学生が自分で花を咲かせようとする時に水を与えるに過ぎない」として、学生が学問を学ぶ本当の理由は「自然や社会で起きている現象を分析何が本当のことなのかを見極める能力を涵養することである、すなわち、本来的なliteracy(リテラシ)を身に付けることである」であり、学問は自己の他人による家畜化を拒絶する唯一の方法であるとも言っている。(チョムスキーの教育論、明石書店)

さらに孟子曰く、「君子に三楽有り。略。父母俱に存

し、兄弟故無きは一の楽しみなり。仰いで天に愧ぢず、俯して人に愧ぢざるは二の楽しみなり。天下の英才を得て之を教育するは三の楽しみなり(「育英」という言葉の出展。)」とある。即ち教員とは君子の最上の楽しみであるということである。

私は人生の大半を会社人として成熟した大人と付き合いしてきた。本校では16歳から22歳までの未完成な学生と接することで、「教える」というより「小職が学ぶ」、即ち「人間としてliteracyを身につけること」であった。だから教員生活の総括として「教えるということは」すなわち「教える育てる」のではなく、「共に育つ」であったと考えている。それが本来の「education=能力を引き出す」ということだと確信している。

3. 課外活動を経験して

小職の沼津高専課外活動顧問は一貫して「野球部」である。着任以前は野球は観戦席から見ていた。着任以降高校野球を生まれてはじめてベンチから観戦した。「女子マネージャーや選手の希望、強い意志、喜びと歓喜、失望、そして無念の涙」を、また「監督の喜び、信頼、失望そして怒り」を真近に見て、文字通り選手や監督と一体と化して課外活動を楽しんだ。こんな経験は、どんなにお金を積んでも得られるものではない貴重な体験である。孟子の言う最高の楽しみであったと考える。この感動は今後の小職の人生に役立つに違いない。

4. 研究活動について

私の研究分野は環境工学であり、最終の達成手段は化学プラントの創造である。研究哲学は常に「沼津高専の外から見る」「地球全体から俯瞰する」「未来(50年後の世界)から考察する」の視点で、「薬品を使用しない」

「燃やさない」「物質収支の最適化」プラント設備を目指すことである。実力が足らず未だ研究途上ではあるが今後も引き続き努力を継続するつもりである。

5. 最後に

学生には夢を与えたい。夢は何度敗れても終わりはない(コブクロの「蒼く優しく」から)。6年間の最後に、2010年度第1回原子力・エネルギー課題研究コンクールで一部の学生にはあるが優秀賞受賞という夢と成果を与えることができたのは幸運であった。教職員の皆さんはこのような素晴らしい職場にいることを改めて再認識



努力

学生課教務係

青木 さえ子

「天才とは99%の努力と1%の靈感である。」これは有名なエジソンの言葉です。その天才発明家が蓄電池の開発に取り組んだときのエピソードをご紹介します。その研究で、彼は最適の電極材と電解液の組み合わせを求め、9千回以上の実験を行ったそうです。膨大な時間を費やしたにもかかわらず、結局、十分な成果が得られ

して、学生が自ら花を咲かすことができるように自らとこの職場を大切にしてほしいと願っている。

小職はこの教員経験を、次のステップでは政治などより広範に社会に還元できるよう微力を尽くしたいと考えている。「青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言う。(略)、年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。」とのSamuel Ullmann (アメリカの詩人)の詩『青春 (Youth)』を心のよりどころとして。

ずに終わりますが、エジソンは周りの人々に「この研究では大きな成果を挙げることができた。なぜならば、この実験を通じて役に立たない材料を数千種類も知ることができたのだから。」と語ったそうです。そこに彼の「99%の努力」の本質が何であったかを知ることができます。『無数の失敗を前にして、自分を励まし続けること。その努力です。』

「37年2ヶ月と4日」長い期間お世話になりました。この長い日々を乗り越えて来られたのも、共に叱咤激励して下さった皆様のお蔭と思っています。この先も『努力』を惜しまずに自らを励ましていくつもりです。ありがとうございました。



個性というもの

技術長

増田 博代

この3月をもちまして定年退職を迎えます技術室の増田博代と申します。昭和48年に着任以来38年間の永きにわたり、学生の皆さんを始め教職員の方々には本当にお世話になり言葉に尽くせぬ程のたくさんの素晴らしい思い出を頂きまして心より感謝しております。

技術室という部署に所属し、物理・化学・応用物理実験を担当して、学生の皆さんに密着したこの仕事を最後まで勤続する事が出来た幸せをかみしめております。実は私は国文科を卒業しており、38年前は事務官として着任したものの、実験助手の欠員があった偶然から化学実験室に配属され、当時の化学教員の渋谷先生より一から講義を受けて、右往左往しながらの実験補助を行って参りました。今思えばあまりにも専門性を問われないおらかな時代であったのですが、現在と比較して数倍といえる実験テーマ数を、1件の事故もなくこなせたことは、当時の先生方のきめ細かなご指導とご配慮の賜物と思っております。その後、機会を得て一般科目の物理実験とさらに応用物理実験も担当し、文系の自分の頭が左脳の

重さに傾くほどに勉強と研鑽を重ね、科学研究費も数回取得して学生実験をテーマとした研究にも従事することが出来ました。科学の面白さ、楽しさを私なりに深く堪能して来た生活であったと思います。

こうした自身の歴史を振り返るとき、人間の個性、能力とは何だろう、といつも考えます。自分は文系であると自負してはいたはずが、いつの間にか高専という技術者を目指す若者たちの前で実験指導を行っている不思議さにまさに目を瞠る思いです。人の能力を発掘する機会とは、ほんの小さな偶然から始まることもあり、そのチャンスを見逃さず尻込みせず流れに乗ることの大切さ、そしてそこには手を差し伸べる他者の存在が必ずあることを、このご挨拶を書くに当たり自身の経験をもって学生の皆さんに伝えたいと思います。

私の座右の銘に「蘭在幽林亦自香」という言葉があります。蘭は深い森に在ってもおのずから香ばし、という直訳ですが、この「深い森」を私なりに解釈すれば、人が誰もかかえる混沌とした悩みや苦しみ、また人間関係の錯綜したはざまと捉えてみると、その中であってなおその人ならではの香気を発して存在を光らせる、という意味になるかと思えます。そうした深い森の中でキラリと光る個性をもつ人間になれたらと、この歳になってもまだ到達できない夢を私も持ち続けて行きます。学生の皆さんには、いつも自分の個性とは何だろうと考えてほしい、そして周りの大人たちの光る個性を範として、

自分にやがて訪れる機会を見逃すことなく能力を見つけて出し、個性を磨き続けて行ってほしいと切に願っています。

最後になりましたが、これまでの皆様からのご厚誼に深く感謝すると共に、私をここまで育てて下さった沼津

高専に、少々子供じみているのですが心より次の言葉を捧げて退職のご挨拶とさせていただきます。

沼津高専、大好きです！皆様、本当に有難うございました。



定年を迎えて

技術専門職員

永山 洋一

私が社会人としてスタートした70年代は、わが国が今の韓国、中国のように経済が急拡大し、人々の目が世界に向いており、社会全体が活気に満ち溢れ、皆が積極的に動かざるを得ない時代だったように思われます。“ジャパン イズ ナンバーワン”と言われ、これからは日本が世界のトップに立ち、世界を引っ張っていくリーダになろうとの意気込みが在りました。目標も、もはや欧米諸国でなく自ら作っていかねばならない未知の世界に踏み入れてしまったと考えられていました。私が以前勤めていた会社においても評価は、技術が世界トップレベルかどうかでした。経済は右肩上がりに成長し、インフレ状態が当然で、物価が上昇するのでそれに追いつく為に長時間の残業にも耐えて働きました。バブルがハジケルと、一転して金余りの時代に入り、マネーゲームに関心が向けられ、投機により汗水して働かない人が世の

中の脚光を浴びる時代が到来し、其の後は、リーマンショックで、今の日本になってしまったようです。

どうしてこのようになったのかわかりませんが、この世の中、正解があって動いているので無く、勢いなのか、影の何かの思いつくままなのか、誰も本当のことはわからないまま思わぬ方向に進んだりするように思えます。そういう中で個人のとるべき道は、自分を磨き、信念を持って目標に向かって努力し続けられるかだと思います。そうすることで自分に技術なり技能なりの実力が備わり、結果に繋がると思います。

幸いにして、当校は「人柄の良い優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」の創立以来の教育理念があり、目標がはっきりしています。「人柄」はどのようにして磨くのかは、この理念を持った沼津高専の教職員や学生および関係者により、長い年月をかけて作り出された環境に身を置くことによって形成されると理解します。同じホームルームで過ごす5年間で良い友人、仲間をつくり人生の目標をじっくり掴んでほしいと思います。

これまで係わっていただきました皆様のご健康とご活躍を祈り、これまでのご厚情に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生・修了生から

5年間の学生生活を終えて

機械工学科5年 宮川 穰

成人式を迎え、5年間という高専生活も残りわずかとなり、今振り返ってみると、あっという間に過ぎてしまったように感じます。学年が上がるにつれて月日が経つのが早く感じるよという先輩の言葉が、当時はわからなかったものの、今では自分も同じ立場になりその通りだと思えるようになりました。とはいえ、その1年毎に充実した時を過ごしてきたと思っています。

3年間の寮生活では、友達や先輩・後輩と同じ時間・空間を共有することで非常に充実した日々を送ることができました。勉強でわからないところを友達同士で真剣に議論しながら学ぶ習慣や、仲間と過ごすために必要なあいさつをする習慣は寮生活を通してでなければ得られないものです。時には意見の食い違いから喧嘩をするこ

ともありましたが、本気でぶつかりあって認め合うことができた友人とはそれまでより一層気の置けない仲間となりました。また、このような生活の中で、先輩との接し方や後輩への指導の仕方を身に付け、大きく成長することができました。

4年次からは自宅通学を始め授業の課題などで忙殺されていましたが、いろいろな出来事が凝縮されて充実していました。本格的に始まった専門科目の面白さを知り、より一層勉強に身が入るようになりました。また、学校の勉強以外の活動にも積極的に取り組みました。

工場見学では実際の雰囲気を経験することができ、友達との絆も深めることができました。

5年間で一番大変だったことは、やはり5年間のテスト週間です。正直、中学時代はあまり勉強するほうではありませんでした。しかし、高専に入るとテストのレベルは高く、思うように点が取れない教科もありました。そのようなときに助かったのが、寮生活です。わからない問題が出たときはもちろん、やる気が起きないときは

よく友人の部屋を訪ねました。周りの勉強モードは自然と私を焦らせ、やる気を引き起こしてくれました。中学時代、勉強は1人でやるものだと思っていた私にはとても大きな発見でした。寮生活が無かったら、私は今の成績を取ることはできなかったと思います。寮を出た今でも、テストが近づくと友人と勉強会を開きます。

これら全てのことに共通して言えることは、どの経験

沼津高専で得たもの

電気電子工学科5年 中川周平

私が沼津高専に入学し、5年間の学生生活を送った上で率直に感じることは、「なんて贅沢をさせてもらったのだろう」ということです。私の場合、この沼津高専・電気電子工学科を選択した理由はあまり褒められたものではありません。中学では理数系が得意であり、淡い青春時代が似つかわしくなかった私は、何といても休日が豊富なことから沼津高専への入学を決心しました。電気電子工学科を受験したのは、最も競争率が低かったからです。そんなネガティブな心持ちでいた私でも、ここ沼津高専での生活は確かに息衝いています。「寮生活」、「部活」そして「学業」、いずれも他の高等学校では味わえないものだったことでしょう。

沼津高専の全寮制は周知の事柄ですが、その一番の魅力は「学生自治」にあります。そんな中、私は5年間も居ながらずっと一般寮生でした。しかし一般寮生ながらにして、沼津高専の寮生であるという自負はあります。低学年の頃は先輩方に怒られないように、必死に寮生活をこなしていきました。今まで羨望の眼差しで役員たちを見上げていた私でしたが、高学年になると、友人がその役目を全うしている姿を目にするのです。ならば私は彼らに恥じないように、一般寮生としての生活を全うすることが使命なのだと感じました。親に庇護される生活から脱却し、寮生活で自分より遥かに優れた人間に憧れを抱いて、そして他人と自分に誇りを持って巡る日々は、沼津高専で間違いなく最も貴重な宝物です。

入学して間もなく右往左往していた私にとって、寮生活の次の難関は、部活を選ぶことでした。運動部は柄ではないと忌避していた私は、かといって入部しなければ自堕落な毎日の積み重ねになるだけだと、ロボコン部へ

も友人がいて初めて成り立つということでした。私が高専5年間で得た最も大きなことは多くの友人に出会えたことです。

このような経験により身に付けた多くの姿勢や考え方は、これから私の人生の支えとなる太い柱になっていくと思います。今まで支えて下さった友達、両親、先生方に心から感謝したいです。ありがとうございました。

入部した次第であります。個性的な沼津高専の中でも、一層に濃い面々が揃うロボコン部にあって、これといって特徴のない私の存在は何だかひどく浮いていると感じたものです。元来、さしてロボットに興味があったわけではないので、部活動の作業はあまり楽しいものではありませんでした。仲間の作業の手際を羨み、自分の無力さに苛まれることも多く、いったい私がこの部活で出来ることは何なのだろうと煩悶しました。そうして2年次にはロボットを制御する回路を担当することを決意したのです。私に回路を指導して下さった先輩方は、新しい回路を開発し、沼津高専ロボコン部に確かな進歩をもたらしました。それを受け継ぐ私は、何かを残せるのだろうかかと悩み、至った結論が「CADで回路基板データを残す」というものです。私には新たな回路の開発などの能力はありませんでした。だからせめて、先人たちの記録を理解して、私なりに整理してデータに残しました。たった一つの些細なことではありますが、私も沼津高専ロボコン部に貢献できた確かな証です。

沼津高専は大変優遇された学校です。普通高校のような死に物狂いの受験勉強もなく大学へ進学でき、この不況でさえも、ほとんどの人が得難き内定を手に入れました。他校の話は仄聞する限りでは、沼津高専生は勉強熱心とは言い難いと思います。それでも私は、レポートの提出は真面目に行いました。特に電気電子工学科の工学実験レポートは、白紙のレポート用紙を自身で満たしていくのです。4年次にはPBLがあり、そして5年次の卒業研究では、課題すら自身で提示しなければなりません。沼津高専の学業は、単純に暗記させるものでもなく、一方的に理解させるものでもない、自らの頭で考えさせるものなのだと実感しました。沼津高専には色々な発見を私に与えてくれたのです。それに報いるためにも「人柄のよい、優秀な技術者となって世の期待にこたえる」ことを目指して歩いていきます。

5年間高専生をやって

電子制御工学科5年 金子裕哉

5年間の高専生活を振り返って、ということなのですが、自分の事で1600字も書くのは恥ずかしいので、5年

間高専生をやった人間が、高専について思った事を書きます。

まず僕が思った高専の良い所ですが、1番は5年間同じクラスだという事です。方式が違う高専もありますが、沼津高専は5年間同じクラスで授業を受けます。その為に一貫した教育が受けられるという事も良い所なのでしょうが、僕が言いたいのは5年間一緒に過ごした仲間がで

きるという事です。もちろん、寮や高専祭のスタッフなどで他のクラスや学年とのつながりもできるとは思います。寮は出る人がいますし、スタッフも得意ではない人はいます。それでも必ずクラスで5年間同じ人と顔を合わせるわけですから、何だかんだ言っても仲の良い友達ができます。これは何物にも代えがたい宝だと思えます。また、僕が見てきた限りでは、高専生はちょっとお馬鹿な話も好きですが、真面目な話も大好きです。親から離れて、年の近い先輩の指導を受けて、素直に尊敬したり、逆に反発したり、後輩の指導をしたり、仲間と何かを作りあげたり、一般的でない進路に悩んだりする中で、仲間と真剣な話もするようになります。真剣に物事を考えられること、真剣に人の話を聴けること、そして議論ができること、これらはとても大切な能力だと思います。こういう話ができる仲間がいることも素晴らしい事じゃないかと思えます。もしかすると、屁理屈をこねるのが好きなだけという可能性もあるのですが。

良い所を挙げたからには反省したい点も挙げようと思えます。先日、2年生のあるクラスで話をさせて頂く機会があったのですが、タメになりそうな話はできなかった。逆に訊いてみました。「君たちは卒業して就職して技術者になって、その後家族を養っていくんだという覚悟はあるか？」ということを知りたいのですが、あると答えた人はいませんでした。僕も流石にあるという人

なんていないと思って訊いたのですが、そんな事を考えてみても良いかと思えます。昔の高専は大学編入もなく、高専に入ったときには5年後に技術者になる、と腹を決めておく必要があったのではないかと思うんです。高専を出た後大学に編入できるようになった事などは、道が広がって良い事です。ただ、道が広がっても最終的に就職するという事を学生は覚えておくべきだと思います。事実を知っているという事ではなくて、働いてお金がもらえるような人材になれるか、なる為の努力はできているかと考えられるぐらいにはなっておく必要があると思います。正直なところ、いわゆるイマドキの学生がそんな事を考えていたかどうかは知りません。ただ、自覚が足りない若者が多いと耳が痛くなるほど世間が叫んでいる今の世の中ですから、そんな事を考えられる学生がいたら、強いんじゃないかと思うんです。常日頃からそんな覚悟を持って授業を受けるのは厳しいと思うので、5年間の高専生活の中でそんな事を考える事が一度くらいあったらいいと思えます。

5年間過ごして、僕は高専に来て良かったです。5年もあれば良い所悪い所それぞれ見えてきたりもしますが、高専の最終評価はA評価だったと思えます。

とある高専の専攻科生

機械・電気システム工学専攻2年
境田 裕

まず、専攻科と聞いて本科の学生や保護者の方々は何を思い浮かべるでしょうか。恐らく「専攻科生って何してるの?」、「専攻科って何?」などと疑問を抱くことでしょう。そこで、私が2年間在籍した経験から専攻科を主観的に紹介します。

【専攻科概要】

専攻科を簡単に言うと、大学卒扱いになるための課程です。沼津高専の専攻科には機械・電気システム工学(ME)、制御・情報システム工学(DS)、応用物質工学(CB)の3つの専攻があります。しかし、専攻間の隔たりはほぼありません。本科制御情報工学科からME専攻へ進学するなどの例もあり、学習内容や取得学位に影響はありません。

【講義】

数学や英語、物理などといった一般科目、本科で学んだ専門知識を基礎とした専門科目があります。取得する学位の区分により受講する講義を選択しますが、自分の区分以外の講義を受講することもできます。私はE科出身ですが、情報系の講義を多く受講しました。他分野へ

の理解があるからこそ出来ることがあると考えたためです。同じ食材だけでは美味しい料理は作れず、様々な食材が入ってこそ美味しく仕上がるのと同じです。ちなみに、JABEEの関係で課題が大量に出されます。

【実験】

本科と同様に実験はありますが、自分の出身学科以外の分野の実験も行います。こちらも他分野を知るという面ではとても良い場です。

【インターンシップ】

専攻科のカリキュラムではインターンシップが必須となっており、多くの学生は1年次の夏季休暇を利用して会社へ訪問します。正直、夏季休暇中の2週間を費やすのは学生としてはとても苦行なのですが、それに見合うものを得られるのは確かです。私は実際に開発の現場を体験し、この経験が就職活動に大いに役立ちました。

【専攻科研究】

研究は学位授与の審査基準となっているので気を抜くことはできません。また、専攻科では基本的に、外部発表を含めて4回以上研究発表の場があります。自分の行っていることを他人にわかりやすく伝えるプレゼン技術や資料作成のプロセスは社会に出てから役立つことでしょう。

【就職】

私が専攻科で一番良かったと思えるものがこれです。今年度は過去最悪の就職難とも言われ、大学生の就職内

定率は1月時点で7割に達していません。しかし、このような就職難の中でも高専は高い内定率を誇っています。専攻科も例外ではなく、夏季休暇までにほとんどの専攻科2年生は内定を頂きました。その上、大学卒と同等の扱いなので高専卒よりも多く稼ぐことができます(笑)。

【学位授与審査】

専攻科は大変だと言われていますが、その犯人です。外部機関による論文審査と筆記試験が行われ、これに通らなければ専攻科を修了することができません。よって、専攻科生達は合格するために必死なのです。

【費用】

専攻科の授業料は国立大学の半分程度です。大学編入よりも費用をかなり押さえることができます。保護者の方からしてみれば嬉しい限りではないでしょうか。

【学生生活】

同級生達とは5年以上の付き合いになるので、特に気

を遣うことなくのんびりと生活することができます。ちなみに専攻科には体育祭や高専祭といった概念は無く、体育祭の日は本科生の声援を聞きつつ方程式を解き、高専祭の前日はスタッフの楽しそうな活動を見つつシステム設計をするわけです。

ざっくりとした説明でしたが、以上が学生から見た専攻科です。しかし、これは専攻科のごく一部でしかなく、全てを紹介したわけではありません。専攻科は本科と比べてとても忙しく、割に合わないと思う面もあります。しかし、専攻科だからこそ経験できることもたくさんあります。そういった専攻科の良し悪しを知るには専攻科生に聞いてみるのが一番です。専攻科への進学を考えている学生には、是非とも専攻科生に直接話を聞いてみるをお勧めします。専攻科生は良い人ばかりなのでしっかりと対応してくれるはずですよ。

私の高専時代

高専時代を振り返り ——友達、チャレンジ精神

電気電子工学科 江 間 敏

1. はじめに (15才の決断)

私が入学した年は沼津高専が初めて卒業生を出した年でもあり、学校としてまだよくわからない状況でした。出身中学で二人目の合格者ということで先生方は大変喜んでくれました。当時の受験は高専2日間引き続いて2日間高校と4日連続の受験でした。袋井でしたので浜松会場、その後磐田南高で2日間、当時、高校は9科目で体育は実技もあり、4日間連続の試験は中学生にとって大変だった記憶があります。どちらも合格し、悩みましたが父親の強い勧めもあり高専に進学しました。

2. 優秀な仲間たちとS君との出会い

県内東部の進学校(沼津東、富士、韮山)を合格して来た学生が半分、その他山梨、神奈川県出身者が5名いました。理数を中心に優秀な学生が集まりました。とりわけ入学生代表になったS君の秀才ぶりには驚きました。

数学が群を抜いてでき、専門書である数学概論(高木貞治)という厚い本を寮にもって来て、時々読んでいました。学校の勉強では物足りなかったようです。結果的に彼は数学を勉強するために、3年で進路変更し東工大理学部へ現役合格という快挙を成し遂げました。今でも交流はありますが、彼との出会いが少なからずその後の自分に影響したことは事実です。この当時、寮は任意でしたが、私は3年間寮生活をし、S君からいろいろと教えてもらいました。

3. 継続は力なり

私は数学と語学が好きで、その他の科目はあまり得意ではありませんでした。好きな科目は徹底的に勉強するタイプでしたので、英語は熱心に勉強したと思います。ラジオ講座(松本亨・毎日15分)「英会話」「百万人の英語」は5年間聞いていました。このような継続が大学編入でも役立ち、大学・大学院でも英語力においては高専というハンディを感じることはありませんでした。

クラブ活動は5年間体操部に所属し、スポーツをした後の爽快感、体力作りが魅力で、豊田高専との交流戦、沼津スポーツ祭などに参加しました。

4. チャレンジ精神



雄峰寮2階の寮生(2年生)



体育祭(3年生のクラス仮装)

学生時代は、チャレンジ精神が旺盛でいろいろな事に挑戦しました。2年次にアメリカで勉強したいと考え「AFS留学試験」を受験しましたが、静岡県で1、2名合格の超難関試験でありあえなく撃沈、会場である静岡高校で優秀な高校生と受験したことは刺激となりました。その後も、国立大学編入学試験、進学後は上級職公務員、日米学生会議、通訳案内業等に挑戦し、合格したのも

ありましたが、どれも難関でした。

今思うと若気の至りでもありますが、高専時代にさまざまな友達に会い、影響を受けた事が原動力となり、チャレンジ精神も培われたようにも思います。

挫折を経験しながら高専時代に得た友達、チャレンジ精神はその後のエンジニア・教員生活においても大切な財産になっています。

私の高専時代…と音楽

ながさわ まさうじ
電子制御工学科 長澤 正氏

ジュリー・アンドリュースのさわやかな歌声が、びりびりと立てつけの悪いスピーカからノンレム睡眠にある私の耳元に響く。サウンドオブミュージックの調べで寮の朝は始まった。朦朧とした意識の中、廊下に立ち名前を呼ばれると反射的に大声で「はい」と返事をする。今でも、この音楽を聴くと、高山植物が一面に咲く晴れ渡ったアルプスの情景を思い浮かべながらも、「はい」と返事をしたくなる。典型的なオペラント条件付けである。

「めし、いかざー」T.Hが誘う。私は東部出身なので「いくべー」である。同じ静岡県でも言葉に違いがあることも本校に来て知った。登校の音楽は「沼津高専寮歌」だった。

作詞 五十嵐 勉

作曲 後藤 政志

紫煙る東路の
光流れる朝ぼらけ
沼津この丘緑の森よ
芙蓉の峰の真向かいに
集う若者あふれる若さ
五つ年我等育ちゆく
あゝ小林のわが寮よ

同窓会名簿によると、五十嵐勉さんはE4、後藤政志さんはM4の方である。私はE9なので面識はないが、きっとバンカラで硬派な先輩だったに違いない。ユニゾンの男声合唱で決して上手とは言えないが朴訥とした歌声が今も耳に残っている。音源はテープに録音されたものだったが、すでに失われてしまっているだろう。他に寮生逍遥歌、沼津高専音頭などもあった。上の詩は、級友のY.Sが当時の「寮生歌集」を持っていて、コピーを提供してくれた。本当に物持ちのよい男である。寮生歌集にはボブ・ディランの「風に吹かれて」とかピーター・ポール&マリーの「悲惨な戦争」とかも載っていて当時の先輩諸氏の思い入れが伝わってくる。

ビートルズとして最後のシングル盤「Let It Be」が

発売され、エアーチェックしたテープの音が寮中のラジカセから流れる。ビートルズの解散とともに僕らの世代の音楽シーンはいろんな方向に分かれていく。レイモン・ルフェーブルの「雨」、ドーンの「ノックは3回」、マンガジェリーの「イン・ザ・サマータイム」などが聞きやすい音楽として、その後のラジカセを賑わした。同室のK.Iは耳を覆う大きな密閉型ヘッドフォンでクラシックを聞く。目を閉じてタクトを振りながら自分の世界に入っていく。こんな時には彼に声かけるのは禁物だ。

それまで反戦などメッセージ性の強かったフォークソングが大衆化したのもこの頃である。一関高専出身のNSPが大ヒットを飛ばす中、先輩のT.Aさんが中退してレコードデビューした。すごくギターのうまい人だった。私の在学中、一度だけ高専祭に来たことがある。今は沖縄で音楽や著作業で活躍しているらしい。

反大衆性を求める学生はハードなロックの道へ進む。レッドツェッペリンや、ピンクフロイド、ディープパープルといったメタルなハードロックをコピーして高専祭で披露した。この手の音楽の上手下手はよくわからないが、それなりに聞こえた。それにしてもあの大音量、いったいどこで練習をしていたのだろう。正直をいうと、この種の人たちとはあまり交流がなかった。それでも今“Speak To Me”や“Smoke On the Water”などを聞くと何となく懐かしくなる。

浜松はさすがに楽器の街、出身の学生の音楽に対する意識がすごく高い。寮で隣室だったH.Nはいつもコントラバスを抱えており、歩きながら勉強しながら「ぶぶん♪ぶん♪ブン」と唇を震わせていた。ジャズという音楽のジャンルを知ったのは彼のおかげである。ジャズを聴くというと「大人あ〜」という感じがしたので、よくわかりもしない音楽を背伸びして聞いたものである。

H.Nも所属していたブラスバンドのメンバーは圧倒的に西部出身者が多かった。東部ではどの中学でも同様と思うが、私の出身中学などではブラバンはほとんどが女子だったので、西部多数は必然である。ブラバンのコンサートは楽しかった。全員がカンカン帽をかぶってグレンミラーの「In The Mood」、途中で終わったかと思ったらまだ続きがあったので拍手の手を止める。愉快的曲だと思った。圧巻は「タイガーマスクの主題歌」、コンサート会場に特設リングが出現し、勇壮な音楽とともに伊達直人ならぬ先輩Y.Sさん扮するタイガーマスクと悪役レスラーのバトルが繰り広げられる。身長185cmバ

レー部のY.Sさんの高い位置から繰り出すドロップキックは、会場から拍手喝さいを浴びた。

生来の音痴で、歌うのは苦手であるが音楽を聴くのは

好きである。ここ数年で印象的な音楽はなんだったかと自問するがなかなか浮かばない。CMなどで昔の曲が流れると、流行った当時のことが鮮明によみがえるのに。

学生の研究活動 (2010. 5. 1 ~ 2011. 4. 30)

機械工学科 論文発表 (機械工学科及び機械・電気システム工学専攻の機械コース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
M5	○Takashi KOBAYASHI Kiichi MASUI Kensou NISHIURA Hideshi SHIBATA	ASME PVP 2010 Conference, PVP2010-25614, CD-ROM	Method to Estimate the Bolt Loads to Satisfy Tightness Criteria for Gasketed Bolted Flanged Connections	小林 隆志

機械工学科 講演発表 (機械工学科及び機械・電気システム工学専攻の機械コース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
ME1	佐野 裕樹	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	工学教材としての簡便性を考慮した小型磁気浮上装置の開発	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	三谷祐一郎
ME1	佐野 裕樹	日本機械学会東海学生会第42回学生員卒業研究発表講演会	制御工学教材として複数台製作することを想定した小型磁気浮上装置の製作	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	三谷祐一郎
ME1	伏見 翔馬	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	工学教材としての利用の簡便性を考慮したDCモータ制御装置の開発	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	三谷祐一郎
ME1	伏見 翔馬	日本機械学会東海学生会第42回学生員卒業研究発表講演会	SOASを実装した教材用DCモータ制御実験装置の製作	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	三谷祐一郎
M5	長谷川 智洋	日本機械学会東海学生会第42回学生員卒業研究発表講演会	慣性ロータを用いた教材としての倒立振子の製作	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	三谷祐一郎
ME1	望月 翔平	第48回燃焼シンポジウム	MgB ₂ の燃焼合成における混合比の影響 (新富雅仁、牧野敦)	福岡ガールズパレス	2010. 12. 1	新富雅仁
ME1	望月 翔平	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	MgB ₂ の燃焼合成における混合比の影響 (新富雅仁)	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	新富雅仁
M5	田邊 翼	日本機械学会関東支部・精密工学会共催 山梨講演会	2点吊り振子と小振子の非線形連成運動の解析	山梨大学工学部	2010. 10. 23	宮内 太積
M5	福田 克也	日本機械学会東海学生会第42回学生員卒業研究発表講演会	物理振子の振動解析と実験	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	宮内 太積
M5	森 公哉	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	液状化現象の発生機構	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	宮内 太積
M5	田邊 翼	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	2点吊り振子と小振子の非線形連成運動の解析と実験	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	宮内 太積
M5	福田 克也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	半円殻と半円柱の非線形振動の数値解析	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	宮内 太積
M5	伊藤 洸	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	非円形歯車に関する研究 —非円形歯車の工学的応用—	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	山中 仁
M5	五十嵐英哲	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	E Vエコランカーの設計 —ステアリング装置のモジュール設計—	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	山中 仁
M5	五十嵐英哲	日本機械学会東海学生会第42回学生員卒業研究発表講演会	機械のモジュール設計に関する研究	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	山中 仁
ME2	村松 賢	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	小型シャルピー衝撃試験における吸収エネルギーのばらつき調査	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	井上 聡

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
ME1	渡邊良介	日本機械学会東海学生会 第42回学生会卒業研究発表講演会	セラミックスの変動荷重下における動的疲労強度の確率論的評価	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	松田伸也
ME1	渡邊良介	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	変動荷重速度下における脆性材料の破壊強度評価のための確率論的アプローチ	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	松田伸也
ME1	渡邊良介	日本機械学会 2010年度年次大会	変動荷重速度下における脆性材料の破壊強度評価のための確率論的アプローチ	名古屋工業大学	2010. 9. 6	松田伸也
M5	金田 優	日本機械学会東海学生会 第42回学生会卒業研究発表講演会	2相 ($\alpha+\gamma$) ステンレス鋼の超塑性を利用した低負荷下での固相接合に及ぼす時間・温度・表面粗さの影響 (栗山彩希)	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	松田伸也
M5	金田 優	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	二相ステンレスの固相接合に及ぼす時間の影響	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	松田伸也
M5	栗山彩希	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	二相ステンレスの超塑性を利用した固相接合に対する温度の影響	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	松田伸也
M5	川合悠太	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	アルミニウム合金の平面前疲労強度に及ぼす応力比の影響	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	松田伸也
M5	杉村暢一	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	静的荷重下におけるセラミックスの静疲労試験方法の確立	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	松田伸也
ME1	小賀坂暢浩	日本機械学会関東支部・ 精密工学会共催 山梨講演会	大口径および小口径フランジ締結体の密封性能比較	山梨大学工学部	2010. 10. 23	小林隆志
ME1	羽切大生	日本機械学会関東支部・ 精密工学会共催 山梨講演会	フランジ締結体の密封性能に与える増し締めの影響 (長期測定による評価)	山梨大学工学部	2010. 10. 23	小林隆志
ME1	小賀坂暢浩	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	大口径および小口径フランジ締結体の密封性能比較	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	小林隆志
ME1	羽切大生	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	フランジ締結体の密封性能に与える増し締めの影響 (長期測定による評価)	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	小林隆志
ME2	川口瑞樹	第16回高専シンポジウム in米子	電子顕微鏡付き疲労試験機を用いたフレット疲労挙動のその場観察	米子コンベンションセンター	2011. 1. 22	西田友久
ME1	鈴木貴弘	日本材料学会 第59回学術講演会	アルミニウム合金(A7N01)のフレット疲労強度に及ぼすバニシング加工の影響	北海道大学	2010. 5. 22	西田友久
ME1	鈴木貴弘	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	長寿命フレット疲労特性に及ぼす表面処理の影響 優秀賞 (機械・電子制御・ロボット分野)	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	西田友久

電気電子工学科 論文発表 (機械電気システム工学専攻の電気コース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
ME2	○望月翔太 野毛 悟	沼津高専研究報告第45号(2011), pp.47-50	Snをドーブしたシリカガラス薄膜の可視発光	野毛 悟
E5	○中道義之 望月孔二 後藤 怜 宮内太積 田邊 翼 大庭勝久 川上 誠 舟田敏雄	第30回高等専門学校情報処理教育研究発表会論文集第30号(2010), pp.73-76.	2点吊り振子による振動学教材	望月孔二
E5	○青木悠祐 望月孔二 後藤 怜 宮内太積 大庭勝久 中道義之 舟田敏雄	第30回高等専門学校情報処理教育研究発表会論文集第30号(2010), pp.77-80.	剛体振子の振動解析とPSDによる簡易計測システム構築	望月孔二

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
E 5	○望月孔二 後藤裕哉 伶哉 舟田敏雄 金子裕哉 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 鈴木木秀 宮大庭久積 青木道義 大宮内太	平成22年度電気関係学会東海支部連合大会、講演論文集：B2-8.pdf	曲面上の棒の自由振動に関する実験・解析	望月孔二
E 5	○鈴木秀 金子裕哉 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 舟田敏雄 望月孔二	第16回高専シンポジウム in米子	半円筒上の棒の振動実験と解析	望月孔二
E 5	○望月孔二 後藤裕哉 伶哉 舟田敏雄 金子裕哉 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 鈴木木秀 宮大庭久積 青木道義 大宮内太	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011).pp.169-174.	PSDを用いた簡易計測システムによる半円筒上の棒の振動の計測と解析	望月孔二
E 5	○青木悠 祐舟田敏雄 鈴木木秀 金子裕哉 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 望月孔二 後藤裕哉 大宮内太 中川上	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011).pp.181-186.	技術者教育のための工学数理の力学教材の改定 (15)：半円筒上の棒の振動実験と数値解析	望月孔二
E 5	○川上誠 舟田敏雄 大庭勝久 中道義 鈴木秀 金子裕哉 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 宮田昌輝 ゲンクァンファイ 望月孔二 後藤伶	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011).pp.211-216.	技術者教育のための工学数理の力学教材の改定 (13)：扁平楕円体上の棒の振動解析	望月孔二
E 5	○川上誠 舟田敏雄 大庭勝久 中道義 鈴木秀 金子裕哉 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 宮田昌輝 ゲンクァンファイ 望月孔二 後藤伶	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011).pp.217-222.	技術者教育のための工学数理の力学教材の改定 (17)：扁平楕円体上の棒の振動解析	望月孔二
E 5	○鄭庭萬 溶舟田敏雄 大金勝久 中道義 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 望月孔二 後藤裕哉 宮田昌輝 ゲンクァンファイ 川上誠	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011).pp.229-234.	工学数理の演習問題の更新 (1)：物理振子の例	望月孔二
E 5	○鄭庭萬 溶舟田敏雄 大金勝久 中道義 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 望月孔二 後藤裕哉 宮田昌輝 ゲンクァンファイ 川上誠	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011).pp.235-240.	工学数理の演習問題の更新 (3)：剛体運動の例	望月孔二
E 5	○鈴木秀 舟田敏雄 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 望月孔二 後藤裕哉 大庭勝久 中道義 大宮内太 川上	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011).pp.277-282.	技術者教育のための工学数理の力学教材の改定 (14)：半円筒上の棒の振動解析	望月孔二
E 5	○鈴木秀 舟田敏雄 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 宮内太 田邊翼 福田克也 望月孔二 後藤裕哉	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011).pp.289-294.	技術者教育のための工学数理の力学教材の改定 (21)：半円柱の振動の実験	望月孔二
E 5	○望月孔二 後藤裕哉 伶哉 鈴木秀 金子裕哉 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 大庭勝久 青木悠	2011年電子情報通信学会総合大会、会期：2011年3月14日(月)～17日(木)会場：東京都市大学世田谷キャンパス	環状振子の振動測定・解析	望月孔二
ME 2	○岩崎憲嗣 高野明夫	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011).pp.39-42	誘導電動機の磁束軌道とトルク脈動との関係	高野明夫

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
ME2	○高橋儀男 鈴木達也 濱屋 進	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011).pp.35-38	電界と電子の相互作用のシミュレーション(3) -空間高調波管の増幅作用-	高橋儀男

電気電子工学科 講演発表 (機械電気システム工学専攻の電気コース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
ME2	望月翔太	電子情報通信学会 電子部品・材料研究会	Snをドーピングしたシリカガラス薄膜の可視発光特性 (野毛 悟)	知床斜里・道の駅(北海道)	2010. 7. 30	野毛 悟
ME2	望月翔太	電子情報通信学会 ソサイエティ大会	Snをドーピングしたシリカガラス薄膜の光学特性 (野毛 悟)	大阪府立大学	2010. 9. 14	野毛 悟
ME2	望月翔太	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	Snをドーピングしたシリカガラス薄膜の可視発光 (野毛 悟)	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	野毛 悟
DS1	梅原 猛	第16回高専シンポジウム in米子	RFマグネトロンスパッタ法によるAZO薄膜の作製 (野毛 悟)	米 子 コンベンション センター	2011. 1. 22	野毛 悟
DS1	梅原 猛	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	RFマグネトロンスパッタ法によるAZO (Al doped ZnO) 薄膜の作製 (野毛 悟)	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	野毛 悟
E5	井水雅史	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	コンタクトエピタキシャル法による酸化物結晶薄膜形成 (野毛 悟)	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	野毛 悟
E5	米山 彩	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	水晶振動子作製に関するエッチング技術の検討 (野毛 悟)	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	野毛 悟
ME1	中野賢太	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	ダイバータ表面での反射シミュレーション(西村賢治)	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	西村賢治
ME2	岩崎憲嗣	第17回電気学会東京支部 沼津・山梨支所研究発表 会	誘導電動機における回転磁束の形状とトルク脈動との関係に関する研究 (岩崎憲嗣、高野明夫)	東芝キャリア	2010. 11. 24	高野明夫
ME2	岩崎憲嗣	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	二相誘導電動機における回転磁束の形状とトルク脈動との関係についての研究 (岩崎憲嗣、高野明夫)	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	高野明夫
E5	國原一博	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	電動バイクの製作 (國原一博、高野明夫)	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	高野明夫
E5	田中将徳	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	電動機のトルク検出に関する研究 (田中将徳、高野明夫)	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	高野明夫
E5	谷口友紀	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	誘導電動機のトルク検出回路の製作 (谷口友紀、高野明夫)	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	高野明夫
ME2	鈴木達也	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	電磁界と電子の相互作用のシミュレーション -空間高調波管の動作原理-	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	高橋儀男
E5	岡澤貴之	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	電動バイクにおける機器間インターフェース及びプロトタイピング環境の研究	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	嶋 直樹
E5	中川周平	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	圧電素子を用いた電界検出装置の製作	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	嶋 直樹
E5	松井康平	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	Scratchにおける外部入出力機能の開発	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	嶋 直樹
E5	奥野弘人	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	卒業研究時間管理システムの構築	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	眞鍋保彦
E5	西條真輝	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	基本情報処理技術者試験学習支援システムの構築	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	眞鍋保彦
ME2	境田 裕	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	C言語学習支援システムの構築	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	眞鍋保彦
E5	杉山拓馬	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	Webページ解析による情報取得とデータベースによる管理	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	眞鍋保彦
ME1	溝口真澄	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	電気電子工学生向け学習支援システムの構築	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	眞鍋保彦
E5	水口準也	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	電磁界シミュレータ用CAD開発の基礎検討	キラメッセ ぬまづ	2010. 12. 15	草間裕介

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
ME1	森 貴 宏	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	擬似輪郭低減を目的とした多原色ディスプレイの色変換方法	キラメッセ ぬま	2010.12.15	高矢昌紀
E5	小西颯太郎	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	携帯端末を用いた画像エフェクト効果ソフトの開発	キラメッセ ぬま	2010.12.15	高矢昌紀
E5	服部 創	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	分光情報を利用した好ましい肌色の再現	キラメッセ ぬま	2010.12.15	高矢昌紀
ME1	海野雄史	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	AD、DA変換の基礎 (鈴木達也、望月孔二)	キラメッセ ぬま	2010.12.15	望月孔二
E5	後藤 怜	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	起き上がり小法師を用いた振子運動の解析 (望月孔二、鈴木 秀、金子裕哉、舟田敏雄)	キラメッセ ぬま	2010.12.15	望月孔二
E5	後藤 怜	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	半円筒上の棒の振動の実験と数値解析 (鈴木秀、舟田敏雄、金子裕哉、ムハマドイッサトビンモハマドイドロス、望月孔二)	キラメッセ ぬま	2010.12.15	望月孔二 舟田敏雄
E5	田中幸宏	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	人間力の測定法の開発 (榎木啓佑、渡辺敦雄)	キラメッセ ぬま	2010.12.15	渡辺敦雄 望月孔二
E5	鈴木達也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	AD、DA変換の基礎 (海野雄史、望月孔二)	キラメッセ ぬま	2010.12.15	望月孔二

電子制御工学科 論文発表 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
DS1	○杉山昂太郎 鄭 萬 溶	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011), pp.119-122	Wavelet解析による話者判別に関する研究	鄭 萬 溶
DS1	○井上祥太郎 鄭 萬 溶	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011), pp.127-130	バランス測定機的设计変更のための検討	鄭 萬 溶
DS1	○石井孔明 鄭 萬 溶	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011), pp.135-138	防振台に組み込む動吸振器の最適化	鄭 萬 溶
DS1	長澤祐也	第32回発展方程式若手セミナー報告集 (2010), pp.65-74	交差免疫性のある2種病原体に対するSIRSモデルの解析	江上親宏
DS1	○長澤祐也 江上親宏	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011)	交差免疫性のある2種類の病原体に対するSIRSモデルの解析	江上親宏
D5	○江上親宏 田中 弥	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011)	Belousov-Zhabotinsky反応の実験と解析	江上親宏
DS1	○伊藤大輔 長澤正氏	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011)	流星パースト通信によるサロマ湖・札幌間気象データ伝送実験	長澤正氏
DS1	○伊藤大輔 長澤正氏 椋本介士 若林良二 亀井利久	第29回数理科学講演会 講演論文集, No.29, (2010), pp.115-116	サロマ湖-札幌間流星パースト通信システムの数学的モデルについて	長澤正氏
ME2	○藤田将喜 大庭勝久 角田達哉	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011)	抵抗線温度計における位相補償系の校正方法の改善	大庭勝久
DS1	○伊井雅俊 大庭勝久 藤田将喜	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011)	SHマイコンによる温度流速計用の遅延補償系の高性能化	大庭勝久
DS1	○早苗駿一 大庭勝久	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011)	温度流速計用の温度補償アルゴリズムに関する研究	大庭勝久
DS1	○長谷川 輔 大庭勝久	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011)	ケニアロボットコンテスト用のプラットフォーム開発を通じた技術協力の取り組み	大庭勝久
DS1	○大庭勝久 長谷川 輔	論文集「高専教育」第34号 (2011)	ケニアロボコン用のロボット開発を通じたエンジニアリングデザイン教育の実践	大庭勝久
D5	○青木悠祐 杉山隆介 戸塚拓伸 脇坂 久 佐藤康平 片山晃次郎 金子裕哉 鈴木 秀 ムハマドイッサトビンモハマドイドロス 舟田敏雄	第30回高等専門学校情報処理教育研究発表会論文集第30号(2010), pp.14-17	車輪型倒立振子教材による実験導入の検討	青木悠祐 舟田敏雄

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
D5	○青木悠祐 杉山隆介 戸塚伸平 脇坂晃次郎 藤康裕 片山晃次郎 金子裕哉 鈴木秀 ムハマドイッサトビンモハマドイロス 舟田敏雄	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011)	車輪型倒立振り教材によるPBL型工 学実験の検討	青木悠祐 舟田敏雄
D 5	○宮内太積 田邊翼 舟金子敏雄哉久二 岩本木道 大義之 大望庭月 勝久二	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.151-156.	2点吊り振子と小振子の非線形連成 運動の解析 (1)	舟田敏雄
D 5	○宮内太積 田邊翼 舟金子敏雄哉久二 岩本木道 大義之 大望庭月 勝久二	沼津工業高等専門学校研究報告, 第45号 (2011), pp.157-162.	2点吊り振子と小振子の非線形連成 運動の解析 (2)	舟田敏雄
D 5	○望月孔二 鈴木秀大 舟宮内敏太 積久二 大久之 川上太 積誠	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.163-168.	2点吊り振子の3つの線形振動mode の実験と解析	舟田敏雄
D 5	○望月孔二 後藤伶 舟金子敏雄哉久二 大積 藤木悠祐 大宮庭内太 勝久二 積誠 中川上 義之誠	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.169-174.	PSDを用いた簡易計測システムによる 半円筒上の棒の振動の計測と解析	舟田敏雄
D 5	○青木悠祐 舟田敏雄 岩鈴木道義 本太積 大哉久二 鈴中道内 義太積 大望庭月 上誠	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.175-180.	揺動Atwood機械の物理振りModel	舟田敏雄
D 5	○青木悠祐 舟田敏雄 ムハマドイッサトビンモハマドイロス 望月孔二 後藤伶 大宮庭内太 勝久二 積誠 中川上 義之誠	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.181-186.	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (15): 半円筒上の棒の振 動実験と数値解析	舟田敏雄
D 5	○大金庭勝久 舟田敏雄 紅子林裕哉 鈴伊井雅 早苗廣一 木井川 青木月 悠孔 中道義 大望庭月 上誠	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.193-198.	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (22): バネ振子の非線形 振動の数値解析	舟田敏雄
D 5	○川上誠 望月孔二 舟田敏雄 雄 ムハマドイッサトビンモハマドイロス 金子裕哉 鈴木秀 青木道義 大庭勝久	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.199-204	技術者教育のための電気電子工学実 験「負性抵抗発振器の特性」の教材 の更新 (3): 遅延を 持つBonhoeffer-Van der Pol方程式 の数値シミュレーション	舟田敏雄
D 5	○川上誠 舟田敏雄 ムハマドイッサトビンモハマドイロス 金子裕哉 鈴木秀 望月孔二 大庭勝久	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.205-210	技術者教育のための電気電子工学実 験「負性抵抗発振器の特性」の教材 の更新 (4): Bonhoeffer-Van der P ol方程式の回路シミュレーションと解 析	舟田敏雄
D 5	○川上誠 舟田敏雄 大庭勝久 中道義 鈴木秀 金子裕 ムハマドイッサトビンモハマドイロス 宮田昌輝 ゲンク 宮内孔二 積誠 後藤 伶	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.211-216.	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (13): 扁平楕円体上の棒 の振動解析	舟田敏雄
D 5	○川上誠 舟田敏雄 大庭勝久 中道義 鈴木秀 金子裕 ムハマドイッサトビンモハマドイロス 宮田昌輝 ゲンク 宮内孔二 積誠 後藤 伶	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.217-222.	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (17): 扁長楕円体上の棒 の振動解析	舟田敏雄

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
D 5	○川上 誠 舟田 敏雄 金子 裕 哉 望月 孔二	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.223-228.	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (18): 斜めに取り付けら れたバネによる物体の非線形振動の 特異摂動法による解析	舟田 敏雄
D 5	○鄭 萬 溶 舟田 敏雄 大庭 勝 久 中道 義之 金子 裕 哉 鈴木 秀 ムハマド イッサトビンモハマドイ 望月 孔二 後藤 怜 宮田 昌 輝 グエンクァンファイ	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.229-234.	工学数理の演習問題の更新 (1): 物 理振子の例	舟田 敏雄
D 5	○鄭 萬 溶 舟田 敏雄 大庭 勝 久 中道 義之 金子 裕 哉 鈴木 秀 ムハマド イッサトビンモハマドイ 望月 孔二 後藤 怜 宮田 昌 輝 グエンクァンファイ	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.235-240.	工学数理の演習問題の更新 (3): 剛 体運動の例	舟田 敏雄
D 5	○舟田 敏雄 金子 裕 哉 鈴木 秀 哉	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.247-252.	様々なヘルショウセルの粘性ポテン シャル流解析 (1)	舟田 敏雄
D 5	○金子 裕 哉 舟田 敏雄 岩本 庭 勝 久 鈴木 秀 大望 月 孔二 中道 義之 川上 太 積 宮内 太 積	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.253-258.	揺動Atwood機械のためのModel: 非 対称可変長振子	舟田 敏雄
D 5	○金子 裕 哉 舟田 敏雄 鈴木 秀 哉 宮田 昌 輝	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.259-264.	工学数理の演習問題の更新 (2): 上 に凸の曲面 (剛体) 上の棒の運動	舟田 敏雄
D 5	○金子 裕 哉 舟田 敏雄 鈴木 秀 哉 グエンクァンファイ	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.265-270.	工学数理の演習問題の更新 (4): 曲 面 $\cos(x)$ と $-\cosh(x)$ 上の棒の運動	舟田 敏雄
D 5	○金子 裕 哉 舟田 敏雄 鈴木 秀 哉 グエンクァンファイ	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.271-276.	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (20): Cycloid曲面上の棒 の振動と質点の運動解析	舟田 敏雄
D 5	○鈴木 秀 哉 舟田 敏雄 金子 裕 哉 望月 孔二 ムハマド イッサトビンモハマドイ 望月 孔二 後藤 怜 大庭 勝 久 中道 義之 宮内 太 積 川上 太 積	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.277-282	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (14): 半円筒上の棒の振 動解析	舟田 敏雄
D 5	○鈴木 秀 哉 舟田 敏雄 金子 裕 哉 望月 孔二 ムハマド イッサトビンモハマドイ 大庭 勝 久 中道 義之 望月 孔二 宮内 太 積 川上 太 積	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.283-288	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (16): 半円殻と半円柱の 非線形振動の数値解析	舟田 敏雄
D 5	○鈴木 秀 哉 舟田 敏雄 金子 裕 哉 望月 孔二 ムハマド イッサトビンモハマドイ 宮内 太 積 田邊 翼 福田 克也 望月 孔二 後藤 怜	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.289-294.	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (21): 半円柱の振動の実 験	舟田 敏雄
D 5	○中道 義之 鈴木 秀 金子 裕 哉 青木 悠 大庭 勝 久 望月 孔二 宮内 太 積 川上 太 積 舟田 敏雄	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.295-300.	出前授業のための様々な振子実験装 置の製作と試験・実験	舟田 敏雄
D 5	○中道 義之 舟田 敏 金子 裕 哉 鈴木 秀 大庭 勝 久 望月 孔二 宮内 太 積 川上 太 積	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.301-306.	2点吊り振子の振り振動の基礎解析 (2)	舟田 敏雄
D 5	○中道 義之 舟田 敏 金子 裕 哉 鈴木 秀 大庭 勝 久 望月 孔二	沼津工業高等専門学校研究報告 第45号 (2011), pp.307-312.	技術者教育のための工学数理の力学 教材の改定 (19): 変形Atwood 機械 の運動解析	舟田 敏雄

電子制御工学科 講演発表 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員
DS1	石井孔明	日本機械学会Dynamics & Design Conference 2010 (機械力学・計測制御部門講演会)	防振台に組み込むチューンドダンパの最適化 (吉村卓也)	同志社大学	2010. 9. 15	鄭 萬 溶
DS1	杉山昂太郎	日本機械学会Dynamics & Design Conference 2010 (機械力学・計測制御部門講演会)	Wavelet解析による話者判別に関する研究	同志社大学	2010. 9. 16	鄭 萬 溶
DS1	井上祥太郎	日本機械学会Dynamics & Design Conference 2010 (機械力学・計測制御部門講演会)	バランス測定機的设计変更のための検討	同志社大学	2010. 9. 17	鄭 萬 溶
D5	佐藤正英	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	反発係数の微小変動がロッキング振動特性に与える影響	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	鄭 萬 溶
DS1	石井孔明	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	防振台に組み込む動吸振器の開発に関する研究	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	鄭 萬 溶
DS1	井上祥太郎	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	Wavelet解析を用いた異常診断システムの開発 (佐々木良介)	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	鄭 萬 溶
DS1	杉山昂太郎	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	Wavelet解析を用いた話者判別に関する研究1	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	鄭 萬 溶
DS2	佐野晃城	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	Wavelet解析を用いた話者判別に関する研究2	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	鄭 萬 溶
D5	佐々木良介	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	Wavelet解析を用いた異常診断システムの開発 (井上祥太郎)	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	鄭 萬 溶
DS2	佐野晃城	日本音響学会2011年春季研究発表会	Wavelet解析を用いた話者認識システムに関する研究	早稲田大学西早稲田キャンパス	2011. 3. 9	鄭 萬 溶
DS2	天羽貴士	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	USB通信によるロボット制御の研究	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	川上 誠
DS2 D5	水上淳貴 藤永敏輝	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	二足歩行型分散移動ロボットの研究	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	川上 誠
DS1 D5	小林宏充 浦田大地 鈴木崇史 河合祐樹	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	再利用のためのオブジェクト指向によるサッカーロボットシステム設計	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	川上 誠
DS1	伊藤大輔	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	流星バースト通信によるサロマ湖気象観測システム	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	長澤正氏
DS1	長澤祐也	第32回発展方程式若手セミナー	交差免疫性のある2種類の病原体に対するSIRSモデルの解析	伊豆長岡温泉えふでの宿小松家八の坊	2010. 8. 28	江上親宏
DS1	長澤祐也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	交差免疫性のある2種病原体に対するSIRSモデルの解析	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	江上親宏
DS1	長澤祐也	第16回高専シンポジウムin米子	交差免疫性のある2種病原体SIRSモデルの解析	米子コンベンションセンター	2011. 1. 22	江上親宏
D5	嶋 愛美	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	腫瘍の成長と免疫療法の数理モデル	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	江上親宏
D5	嶋 愛美	第16回高専シンポジウムin米子	腫瘍に対する治療効果の数理モデル	米子コンベンションセンター	2011. 1. 22	江上親宏
D5	杉崎弘樹	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	ウイルス感染に対するCTL応答モデルのHopf分岐解析	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	江上親宏
D5	杉崎弘樹	第16回高専シンポジウムin米子	ウイルス感染に対する免疫応答モデルのHopf分岐解析	米子コンベンションセンター	2011. 1. 22	江上親宏
D5	田中 弥	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	CSRTを用いたBZ反応の引き込み現象の実験と解析	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	江上親宏

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員
D 5	田 中 弥	第16回高専シンポジウム in米子	BZ反応における引き込み現象の 実験及び解析	米 子 コンベンション セ ン タ ー	2011. 1. 22	江 上 親 宏
D 5	武 藤 拓 郎	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	沼津高専電子制御工学科における 地域と連携したロボット開発PBL の検討 機械・電子制御・ロボット分野 優秀賞	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	江 上 親 宏
D 5	武 藤 拓 郎	第16回高専シンポジウム in米子	沼津高専電子制御工学科における 地域との連携を目指したロボット 開発PBLの検討	米 子 コンベンション セ ン タ ー	2011. 1. 22	江 上 親 宏
D 5 D 4	坂代一弥 戸塚拓伸 岡本彰人 桜井賢人 土屋愛実 吉田亮太 渡邊優太郎	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	イベントエリア展示「いろいろな 仕掛けを乗り越えて迷路を脱出す るロボット」(D科MIRSのデモン ストレーション)	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	牛 丸 真 司 江 上 親 宏 青 木 悠 祐
ME 2	藤 田 将 喜	第59回理論応用力学講演 会	二線式温度流速計用の遅延補償回 路の開発	日本学会会議	2010. 6. 10	大 庭 勝 久
ME 2	藤 田 将 喜	日本流体力学会年会2010	デジタル遅延補償による温度流速 計の性能向上	北 海 道 大 学	2010. 9. 10	大 庭 勝 久
ME 2	藤 田 将 喜	第8回日本流体力学会中 部支部講演会	温度流速計の空間分解能向上のた めのデジタル補償方式の確立	岐 阜 市 文 化 産 業 交 流 セ ン タ ー	2010. 11. 19	大 庭 勝 久
ME 2	藤 田 将 喜	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	遅延補償回路による温度流速計の 適用範囲の拡大 (伊井雅俊) 機械・電子制御・ロボット分野 優秀賞	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	大 庭 勝 久
ME 2	藤 田 将 喜	第60回理論応用力学講演 会	成層乱流場中における高精度な温 度・速度同時計測システムの構築	東 京 工 業 大 学	2011. 3. 10	大 庭 勝 久
ME 2	藤 田 将 喜	日本機械学会東海学生会 第42回学生会卒業研究発 表講演会	成層流中における乱流熱輸送の高 精度計測システムの確立	豊 橋 技 術 科 学 大 学	2011. 3. 13	大 庭 勝 久
DS 1	伊 井 雅 俊	日本流体力学会年会2010	熱流体計測システムにおけるデジ タル動的補償システムの構築 (早 苗駿一)	北 海 道 大 学	2010. 9. 10	大 庭 勝 久
DS 1	伊 井 雅 俊	第 8 回日本流体力学会中 部支部講演会	乱流熱流束の高精度計測に向けた デジタル温度流速計の構築 (早苗 駿一)	岐 阜 市 文 化 産 業 交 流 セ ン タ ー	2010. 11. 19	大 庭 勝 久
DS 1	伊 井 雅 俊	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	SHマイコンを用いた温度流速計 の空間分解能の改善 (藤田将喜) 機械・電子制御・ロボット分野 優秀賞	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	大 庭 勝 久
DS 1	伊 井 雅 俊	日本機械学会東海支部第 60期総会講演会	成層乱流場用の熱流束計測系のデ ジタル化 (早苗駿一)	豊 橋 技 術 科 学 大 学	2011. 3. 14	大 庭 勝 久
DS 1	早 苗 駿 一	日本高専学会第16回年会 講演会	組み込みデバイスの流体計測分野 への適用に関する基礎研究	長 岡 技 術 科 学 大 学	2010. 8. 28	大 庭 勝 久
DS 1	早 苗 駿 一	日本機械学会2010年度年 次大会	FPGAを用いた温度・速度同時計 測システムのデジタル化	名 古 屋 工 業 大 学	2010. 9. 6	大 庭 勝 久
DS 11	早 苗 駿 一	第88期日本機械学会流体 工学部門講演会	熱流体用のデジタル計測システム における動的補償システムの高精 度化 優秀講演表彰	山 形 大 学	2010. 10. 30	大 庭 勝 久
DS 1	早 苗 駿 一	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	組み込みデバイスを用いた熱流体計 測システムの高精度化 機械・電子制御・ロボット分野 優秀賞	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	大 庭 勝 久
DS 1	早 苗 駿 一	第16回高専シンポジウム in米子	異分野融合による温度・速度同時 計測システムの開発	米 子 コンベンション セ ン タ ー	2011. 1. 22	大 庭 勝 久
DS 1	長 谷 川 輔	日本高専学会第16回年会 講演会	ケニアロボコンを題材としたエン ジニアリングデザイン教材の開発 ポスターセッション優秀賞	長 岡 技 術 科 学 大 学	2010. 8. 28	大 庭 勝 久

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
DS1	長谷川 輔	日本機械学会2010年度年次大会	ケニアロボットコンテストへ向け たプラットフォームの開発と評価	名古屋工業大学	2010. 9. 8	大庭勝久
DS1	長谷川 輔	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	ケニアロボコンへの技術協力を目的 とした国際交流	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	大庭勝久
D4	宮田昌輝	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	振子の非線形性を考慮した複合的 実験教材の開発	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	大庭勝久 舟田敏雄
D5	杉山隆介	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	人とロボットの協調動作による超 音波治療補助ロボットの設計・製 作 機械・電子制御・ロボット分野 優秀賞	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	青木悠祐
D5	杉山隆介	第16回高専シンポジウム in米子	超音波診断・治療補助ロボットシ ステムの設計 (戸塚拓伸)	米子コンベンションセンター	2011. 1. 22	青木悠祐
D5	戸塚拓伸	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	電動/空気圧ハイブリッド駆動に よる医用アクチュエータの制御 機械・電子制御・ロボット分野 優秀賞	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	青木悠祐
D5	戸塚拓伸	第16回高専シンポジウム in米子	医療ロボット用電動/空気圧ハイ ブリッドアクチュエータの開発 (杉山隆介)	米子コンベンションセンター	2011. 1. 22	青木悠祐
D5	金子裕哉	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	半円柱の振動の実験	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	舟田敏雄
D5	金子裕哉	日本機械学会東海学生会 第42回学生員卒業研究発表 講演会	多重尺度法を用いたバネ振子系の 解析	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	舟田敏雄
D5	鈴木 秀	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	半円筒上の棒の振動の実験と数値 解析	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	舟田敏雄
D5	鈴木 秀	第16回高専シンポジウム in米子	半円筒上の棒の振動実験と解析	米子コンベンションセンター	2011. 1. 22	舟田敏雄
D5	鈴木 秀	第16回高専シンポジウム in米子	半円柱の振動の実験と解析	米子コンベンションセンター	2011. 1. 22	舟田敏雄
D5	鈴木 秀	日本機械学会東海学生会 第42回学生員卒業研究発表 講演会	2点吊り振子と剛体振子の振動実 験と解析	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	舟田敏雄
D5	ムハマドイッザトビン モハマドイドロス	富士山麓アカデミック& サイエンスフェア2010	強制BVP (Bonhoeffer Van der Pol) 方程式のsimulation	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	舟田敏雄

制御情報工学科 論文発表 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
DS2	○渡邊 将臣 大島 茂	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011)	水圧ベーンモータの出力トルクに関する理論と 実験による考察	大島 茂

制御情報工学科 講演発表 (制御情報システム工学専攻の制御情報システムコース含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
DS2	紅林 広亮	日本神経回路学会	Inhibitory circuits in the visual cortex control the generation of plaid illusion (宮下真信、田中繁)	神戸国際会議場	2010. 9. 3	宮下真信
S5	紅林 大地	電子情報通信学会	A mathematical model of a visual cortical network for the gener- ation of plaid illusion (紅林広 亮、宮下真信、田中繁)	玉川大学	2010. 3. 7	宮下真信

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
S5	若 林 和	電子情報通信学会	A theoretical study of orientation map alteration induced by single-orientation exposure in the developing brain (宮下真信、田中繁)	玉 川 大 学	2011. 3. 7	宮下真信
DS2	橋本和紀	2010 Asia-Pacific Radio Science Conference (AP-RASC'10)	Exact solution of a flanged rectangular waveguide and convergence of the solution (Hirohide Serizawa, Kohei Hongo)	富 山 国 際 会 議 場	2010. 9. 25	芹澤弘秀
DS2	橋本和紀	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	フランジ付き方形導波管の厳密解と解の収束性に関する研究 (芹澤弘秀、本郷廣平)	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	芹澤弘秀
DS2	橋本和紀	電子情報通信学会 2011年総合大会	フランジ付き方形導波管の放射特性—厳密解と解の収束性— (芹澤弘秀、本郷廣平)	東 京 都 市 大 学	2011. 3. 15	芹澤弘秀
DS2	渡邊将臣	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	水圧ペーンモータの出力トルクに関する理論と実験による考察	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	大島 茂
S5	小林亮太	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2010	NC加工シミュレーションに基づく高速高精度加工用制御システムの構築—加工中の誤差予測— (宮代佳奈、中村幸平)	旭 川 大 雪 ア リ ー ナ	2010. 6. 15	藤尾三紀夫
S5	矢野公規	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	予測補正制御に基づく高速高精度加工システムの試作	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	藤尾三紀夫
S5	渡邊育美	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	拡張現実感技術を応用した超音波ガイド下穿刺手技支援システムの開発	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	藤尾三紀夫

物質工学科 論文発表 (応用物質工学専攻含む)

(学生が第二著者等であってもすべて記載。)

学 科	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号 (年) 頁	論 文 題 名	指導教員
CB2	○芳野 恭士 稲津 晃司 稲葉 憲子 広田 望	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011), pp.359-362.	Cryptotaenia japonicaの水耕栽培におけるMnおよびMgの発芽に対する影響	芳野 恭士
CB2	○芳野 恭士 竹口 昌之 小野 勝則 勝又 慎司 佐野 輝臣 鈴木 一玄	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011), pp.355-358.	ペットボトル中での通性嫌気性菌の増殖に関する研究	芳野 恭士
CB2	○芳野 恭士 岸 由紀乃 後藤はるな	沼津工業高等専門学校研究報告第45号 (2011), pp.351-354.	Citrus paradisi Macf. 香気成分のマウス脂質代謝に対する影響	芳野 恭士

物質工学科 講演発表 (応用物質工学専攻含む)

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。)

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指導教員
C5	加井慶浩	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	レジ袋に含まれる有害物質の定量調査 (渡辺敦雄)	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	渡辺敦雄
C5	榎木啓佑	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	人間力の測定法の開発 (田中幸宏、渡辺敦雄)	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	渡辺敦雄 望月孔二
C5	吉田周平	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	リン酸態リンの貝殻資材への固定化促進に関する研究 (渡辺敦雄)	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	渡辺敦雄
C5	下田将也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	シリカエアロゲルの表面特性 (黒河、大川)	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	大川政志
C5	芹澤洸行	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	アルミノゲルマネートナノチューブのキャラクタリゼーション (松村、小泉、大川)	キ ラ メ ッ セ ぬ ま づ	2010. 12. 15	大川政志

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員
C 5	堤 涼	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	分子動力学法を用いたSiO ₂ 組成フェリエライトの熱的挙動に関する研究 材料・触媒分野 優秀賞	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	大川 政志
C B 2	佐野輝臣	17th International SPACC Symposium	Development of high sensitivity immunochromatography (IC) that Combined nonelectrolyte copper plating with IC that used Pt-Au colloid as a sign nanoparticle. (Fumihiko Hasumi, Masayuki Takeguchi, Yasuharu Namba, Satoshi Watabe, Kazunari Nakaishi, Urao Nonaka)	鹿児島大学	2010.10.14	蓮實文彦
C B 2	佐野輝臣	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	無電解銅メッキを用いたイムノクロマト法の高感度化 (蓮實文彦、竹口昌之、難波靖治、渡部聡、中石和成、野中浦雄) 優秀ポスター賞	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	蓮實文彦
C B 2	佐野輝臣	日本化学会春季年会 (2011)	無電解銅メッキを用いたイムノクロマト法の高感度化 (蓮實文彦、竹口昌之、難波靖治、渡部聡、中石和成、野中浦雄)	神奈川県 横浜キャンパス	2011.3.28	蓮實文彦
C B 1	河村 慧	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	微生物を利用した下水汚泥堆肥化過程由来アンモニア臭気除去技術の開発 (蓮實文彦、山岡和男、河村慧) 優秀ポスター賞	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	蓮實文彦
C B 1	郷 智裕	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	物質生産能を指標とした微細藻類の機能探索 (蓮實文彦、竹口昌之、関口弘志、杉森大助)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	蓮實文彦
C B 1	郷 智裕	第40回石油・石油化学討論会	微細藻類の機能探索 (蓮實文彦、竹口昌之、関口弘志、杉森大助)	戸 神 国際会議場	2010.11.26	蓮實文彦
C B 1	福田 洸平	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	バイオオーグメンテーションによる油分汚染浄化評価技術の開発 (蓮實文彦)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	蓮實文彦
C 5	安部 晶大	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	酸化チタン塗布樹脂板を用いた食品輸送用コンテナ制菌技術の評価 (蓮實文彦、竹口昌之、飯田泰教)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	蓮實文彦
C 5	石川 岳	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	プロトポルフィリンIXを用いた新規大腸がん検診法の開発 (蓮實文彦、竹口昌之、渡部聡、神谷晋司、土屋達行、山本敏樹)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	蓮實文彦
C 5	塚本 早紀	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	廃糖蜜を糖源としたおからサイレージ化技術の開発 (蓮實文彦、竹口昌之、原田宏、町田 良郎)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	蓮實文彦
C B 1	中戸川 奨	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	コラヒムブツの糖尿病モデルマウスに対する抑制作用 (芳野恭士、金高 隆、古賀邦正)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	芳野恭士
C B 2	岸 由紀乃	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	サラシアのマウス I 型アレルギー抑制作用 (芳野恭士、金高 隆、古賀邦正)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	芳野恭士
C B 2	後藤はるな	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	マウスの血中脂質濃度に対するフィトステロールおよびミソ摂取の影響に関する研究 (芳野恭士、栢村秀範)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	芳野恭士
C B 2	小野勝則	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	L-プロリンを用いる不斉炭素-炭素結合生成反応の溶媒効果に関する研究	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	押川 達夫
C B 2	稲葉 憲子	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	管型マイクロリアクター内に固定化酵素を担持させたフロー系エステル交換反応システムに関する研究	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	押川 達夫

学 科	学生氏名	学 会 名	講演発表題名 (共同研究者名)	会 場	発 表 日	指 導 教 員
C 5	泉谷美代子	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	逆浸透 (RO) 法による亜鉛メッキ排水中の溶存亜鉛の濃縮分離 (稲津晃司)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	稲津晃司
C 5	工藤徹也	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	金属修飾ゼオライト触媒を用いたエタノールからのオレフィン合成におけるメタンの化学的利用 (稲津晃司)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	稲津晃司
C 5	田代広祐	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	常温、常圧下での水素化マグネシウム加水分解を利用した水素の定常供給 (稲津晃司)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	稲津晃司
C 5	富田陽子	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	可搬式燃料電池発電機への応用を目指した水素化マグネシウムの加水分解による水素生成 (稲津晃司)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	稲津晃司
CB 2	広田 望	第16回高専シンポジウム in米子	沸騰水型原子炉重大事故での発生水素除去のための触媒アンモニア合成 (稲津晃司)	米 子 コンベンション セ ン タ ー	2011. 1. 22	稲津晃司
CB 2	鈴木一玄	第13回化学工学会 学生 発表会 秋田大会	水素生産菌 <i>Cronobacter sakazakii</i> NCTC11467の水素生産能に与えるガス組成とpHの影響 (植松彰一、石居 真、蓮實文彦、竹口昌之)	秋 田 大 学	2011. 3. 5	竹口昌之
CB 2	勝又慎司	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	廃棄バイオマス由来炭化物を原料とする賦活炭製造法の開発 (蓮實文彦、竹口昌之)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	竹口昌之
CB 2	鈴木一玄	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	水素生産菌 <i>Cronobacter sakazakii</i> の水素生産能に与えるガス組成とpHの影響 (植松彰一、石居 真、蓮實文彦、竹口昌之)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	竹口昌之
CB 1	千賀淳平	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2010	水草根圏由来メタン資化細菌共生系のC1化合物資化特性 (蓮實文彦、竹口昌之)	キラメッセ ぬまづ	2010.12.15	竹口昌之

平成22年度卒業生・修了生予定者進路先一覧

機械工学科

44名

就職先企業

29名

株式会社IHI回転機械	1
株式会社アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド	2
旭化成株式会社	1
ウシオ電機株式会社	1
NTN株式会社	1
オークマ株式会社	1
株式会社小松製作所	1
ダイキン工業株式会社	1
株式会社椿本チエイン	1
株式会社電業社機械製作所	1
東海部品工業株式会社	1
東京エレクトロンAT株式会社	1
東京電力株式会社	1
東芝エレベータ株式会社	1
東芝機械株式会社	1
トヨタテクノカルディベロップメント株式会社	1
日星電気株式会社	1
株式会社ニトムズ	1

浜松貿易株式会社	1
株式会社日立製作所 電力システム社	1
株式会社日立プラントテクノロジー	1
ベックマン・コールター・三島株式会社	1
本田技研工業株式会社	1
明産株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
山崎工業株式会社	1
ユニリーバ・ジャパン株式会社	1
株式会社リコー	1

進学（編入学）先大学等

15名

東京農工大学工学部	1
長岡技術科学大学工学部	2
金沢大学理工学域	1
静岡大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3
大分大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	5
進学希望	1

電気電子工学科

31名

就職先企業

11名

サントリーホールディングス株式会社	1
総合警備保障株式会社	1
中部電力株式会社	1
株式会社ツムラ	1
東海旅客鉄道株式会社	1
東京電力株式会社	1
東日本旅客鉄道株式会社	1
明治乳業株式会社	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1
防衛省 航空自衛隊	1
富士乳業株式会社	1

進学（編入学）先大学等

20名

福島大学共生システム理工学類	1
東京農工大学工学部	2
横浜国立大学工学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
静岡大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	6
三重大学工学部	1
東京電機大学未来科学部	1
立命館大学理工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	5

電子制御工学科

35名

就職先企業

17名

旭化成株式会社	1
ウシオ電機株式会社	1
株式会社NHKアイテック	1
京セラ株式会社	1
協和メデックス株式会社	1
株式会社小松製作所	1
東海旅客鉄道株式会社	1
日信工業株式会社	1
株式会社ハウスメイトパートナーズ	1
富士電機システムズ株式会社	2
富士レビオ株式会社	1
富士乳業株式会社	1

株式会社明電舎	1
米山モータース	1
自営業	1
就職希望	1

進学（編入学）先大学等

18名

筑波大学理工学群	2
名古屋大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
大阪大学工学部	1
徳島大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	9
沼津工業高等専門学校研究生	1
進学希望	1

制御情報工学科

38名

就職先企業	12名
株式会社エヌ・ティ・ティネオメイト	1
中部テレコミュニケーション株式会社	1
中部電力株式会社	1
東京システムズ株式会社	1
東芝機械株式会社	1
株式会社日本精機研究所	1
日本たばこ産業株式会社	1
株式会社ニューメディア総研	1
富士通株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
株式会社吉野工業所	1
株式会社リコー	1

進学（編入学）先大学等	26名
東北大学理学部	1
福島大学共生システム理工学類	2
筑波大学情報学群	2
東京農工大学工学部	1
新潟大学理学部	2
長岡技術科学大学工学部	3
静岡大学工学部	1
静岡大学情報学部	1
名古屋大学情報文化学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3
浜松学院大学短期大学	1
沼津工業高等専門学校専攻科	6
進学希望	2

物質工学科

39名

就職先企業	18名
旭化成株式会社	1
アステラス東海株式会社	1
エヌ・イー・ケムキャット株式会社	1
オリンパステルモバイオマテリアル株式会社	1
川研ファインケミカル株式会社	1
京セラ株式会社	1
光洋産業株式会社	1
ジェイカムアグリ株式会社	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
タカハタプレジジョン株式会社	1
田中貴金属グループ	1
株式会社日幸製作所	1
日興製薬株式会社	2
株式会社ピジョンホームプロダクツ	1
一杉電機株式会社	1
バックマン・コールター・三島株式会社	1

株式会社リコー	1
---------	---

進学（編入学）先大学等	21名
筑波大学理工学群	1
東京大学農学部	1
東京工業大学工学部	1
東京工業大学生命理工学部	1
東京海洋大学海洋科学部	2
長岡技術科学大学工学部	1
金沢大学理工学域	1
静岡県立大学食品栄養科学部	1
名古屋工業大学生命・物質工学部	1
名古屋工業大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3
三重大学生物資源学部	2
京都工芸繊維大学	1
広島大学生物生産学部	2
沼津工業高等専門学校専攻科	2

機械・電気システム工学専攻

10名

就職先企業	6名
株式会社サイダ・UMS	1
日本軽金属株式会社	1
パナソニック I T S 株式会社	1
富士鋼業株式会社	1
富士乳業株式会社	1
三菱重工業株式会社	1

進学先等	4名
東京工業大学大学院総合理工学研究科	1
電気通信大学大学院情報理工学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科	1
沼津工業高等専門学校研究生	1

制御・情報システム工学専攻

10名

就職先企業	5名
旭化成株式会社	1
株式会社イクス	1
株式会社コナミデジタルエンタテインメント	1
三栄ハイテックス株式会社	1
株式会社前川製作所	1

進学先等	5名
東京工業大学大学院総合理工学研究科	1
横浜国立大学大学院環境情報学府	1
奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科	2
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科	1

応用物質工学専攻

8名

就職先企業	6名
クノール食品株式会社	1
株式会社タウンズ	1
東燃ゼネラル石油株式会社	1
日本食品化工株式会社	1

日立化成工業株式会社	1
矢崎総業株式会社	1

進学先等	2名
東京工業大学大学院総合理工学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学物質創成研究科	1

教育後援会から

卒業に際して

教育後援会会長(C5) 芹澤 啓行

卒業生及び保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして、校長先生をはじめ、先生方及び職員の皆様方のおかげをもちまして、無事卒業できることを、保護者を代表して心から御礼を申し上げます。

入学以来5年が経ち、入学当時の頼りない子供が、成人式を迎え、大人の仲間入りをしたことに、歳月の流れの早さを感じます。今の子供たちは、精神的にもろいと言われ、多少の不安がありました。親として、精神的な成長をどんな形で見守り、導くことを見つけ出すのに悩んでいましたが、案ずるより産むが易しでした。親が思っている以上に、子供たちはたくましく、寮生活・学生生活・部活動を通じて、確実に成長してくれ、大過なく過ごせた事にとっても感謝しています。

これから、卒業生のみなさんは成人となり社会生活を送るようになります。期待と喜びの反面、世の中の動向は先が見えず、どのように生活していけばいいのか不安をもっている事と思います。でも、大きな変化が起きつつ大変な状況だと思いますが、過去の歴史から見れば、潮の満ち干きと同じくこれからも幾度となく繰り返していく事ではないのでしょうか。みなさんなら、十分順応していけると信じています。しかし残念ながら、社会人全ての人々がそうとは限りません。その為、不安や不満、様々な格差、思惑が生まれ、卒業生のみなさんにとって苦難があると予想されます。そんな時、決して他人や社

会が悪いとせず、チャンスと捉えて自分から逃げずに悩み、乗り越える努力をして下さい。それが経験です。その積み重ねがあなた自身の心身・技術を成長させることとなるでしょう。

精神的な面から孟子の「性善説」、荀子の「性悪説」について、少し考えてみます。今まで、みなさんは、家庭・学校で、道徳的な躰、教育を受け、すなわち、「性善説」(善は心に内在し、悪は外在する環境にある)に基づいて生活してきました。現実社会で言えば、人・家庭・地域社会・会社などの組織では善がなければ成り立たないと言う事です。しかし、社会生活を送る上ではどうでしょうか。犯罪者がいる現実があり、「性悪説」(欲・弱肉強食という現実があることを認め、「礼」や法により外からたがをはめ、道徳的に矯正して対処する)という考え方を持ち、自己防衛能力が必要になります。今までは親が子供の盾となり守ってきましたが、これからはみなさん自身が、自分を守る為に、危機管理意識を持ち生活しなければなりません。朱子が「善と悪(ルールから外れた考え)は心の中にあり、中庸(バランス)を保って存在しており、それが崩れたとき、悪になる」と説いています。まずは、精神的に強くなる事により、善悪の見極めをし、心のバランスを保つと言う事ではないでしょうか。

卒業生のみなさん、親やこれから出会う人々も自分の人生を必死に生きています。みなさんが充実した人生を送り、心の安らぎが持てるようになる為には、これかもずっと何事にも逃げず本気(マジ)で生きて下さい。きっと大きな、そしてきれいな花が咲く時が訪れると思います。私はそう信じております。

卒業に際して

教育後援会副会長(C5) 吉田 博

5年生の皆さん、そしてこれまで育ててこられたご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、入学より今日まで教職員方には一方ならぬご指導を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

5年前の春の入学式が、昨日のように感じますが、皆さんはたくましく成長しました。充実した高専の教育環境の中で知識を習得し、実験や卒業研究でスキルを身に付けましたし、生活面では親元を初めて離れた寮生活、高専祭、クラブ活動など色々な経験をすることで自立心、協調性が育ちました。また、いつまで経ってもかけがえない良き友、共に成長する仲間を得ることが出来たと思います。

印象深い出来事としては、平成19年11月に門池地区で第39回技能五輪国際大会が開催されたことです。世界の46の国と地域より選ばれた800人の若い選手の技能を目的の当りにすることで刺激を受けた学生の皆さんも多かったと思いますし、ボランティア等で大会の運営に参加された方は貴重な体験であったと思います。

失われた(激動の)20年という言葉をよく耳にしますがこれからの変化はさらに大きく、スピードも激しくなると予想されます。日本では世界でも類を見ない人口減少が本格化し、20年後には1億人を下回ると見られています。同時に未曾有の超高齢化が始まり10年後には65歳以上の人口比率は30%に達します。一方で、財政赤字も5年後には限界を迎えることが懸念されています。国内市場が縮小しグローバル競争が激化していく中で、日本の製造業界は未だ厳しい状況にあり、就職希望する学生の未内定者は、昨年12月時点で大学生が12万人強、高校生が5万人強とのことです。高専卒の皆さんは普段の努

方の結果として、本年度も100%の就職内定率であり、専攻科への進学、難関と言われる国立、公立大学への編入することができ喜ばしい限りです。

暗いニュースばかりが目立つ社会環境の中、卒業後、すぐに就職する人や、更に進学して勉学を続ける人など進路は違いますが、新しい門出に際して皆さんには是非「プラス思考」、「前向きな考え方」でこれからの人生を過ごされるように薦めます。手元の辞書には、

【プラス思考】

何事においても、きつとうまくいくさ、何とかなるものなど良い方向に考えが向くこと。特に、悪い状況の中でも前向きに考えること。物事を肯定的にとらえる考え方。

とあります。

例えば、「自分は運がいい、運が強い」と思うことや、「不幸なことを列挙する」よりも「幸せなことを列挙

してみてください。そしてこのプラス思考を武器に、少し難しいことに挑戦してください。今できることだけをやっていては現状維持のみで進歩はありません。「一歩前に踏み出すこと」が大切です。「難しそうだ」あるいは「出来るかどうか自信がない」という課題に果敢に挑戦をし、やり遂げることで更なる自信が生まれ、それが次の進歩の基盤となります。自分の目標に向かって、色々なことに食欲にチャレンジを続けて、夢を実現して欲しいと願っています。

最後になりますが、こうして卒業を迎えられるのは皆さんの努力はもちろんのこと、周りの多くの方々のお力添えとご指導のあったことに感謝の気持ちを忘れないようにしてください、沼津高専の教育理念であるく人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえられるように卒業生のこれからの活躍を期待しつつお祝いの言葉といたします。

同窓会から

同窓会へのご案内と同窓会活動のご紹介

同窓会会長 名 倉 光 雄

沼津高専同窓会は、1967年3月開設以来、2010年3月までに43期の卒業生を迎え、42年間の活動を継続しております。会員数は約7000名です。

2009年11月の同窓会総会に於いて会則が改正され、在学生も学生会員として同窓会にお迎えすることが決まりました。教職員・在学生（保護者含む）・卒業生の三者で、さらなる協力関係がつけられた事は、2012年11月に開催される母校創立50周年記念事業へ向け、都合のよい時期ではないでしょうか。在学生・保護者の皆様には是非とも、本校同窓会事業へのご協力をお願いします。

同窓会の活動につきまして、これまでの活動とこれからの予定について説明させていただきます。

1、これまでの活動

- (1) 母校創立10周年・20周年・30周年記念事業への協力
- (2) 図書館前校歌碑の建立
- (3) 奨学金事業（1988年4月より41回の半期授業料の交付）
- (4) プラスバンド演奏会援助・ロボコン大会援助・全国高専大会、海外遠征激励金交付・全国高専大会開催への協力と援助
- (5) 就職説明会・OB出前授業への協力
- (6) テクノセンターへの協力と援助

(7) 技能五輪への協力と援助

- (8) 同窓会名簿の発行と会員への無料配布
- (9) 同窓会誌と同窓会だよりの発行と送付
- (10) 同窓会ホームページの開設と運営
- (11) 同窓会総会の開催

2、これからの活動予定

- (1) 母校創立50周年記念事業への協力
- (2) 産・学・官の三者共同、振興会への協力
- (3) 沼津高専人材バンクの創設と運営
- (4) 奨学金事業
- (5) プラスバンド演奏会への援助
- (6) 全国高専大会・海外遠征激励金交付
- (7) 全国高専大会開催への協力と援助
- (8) 同窓会名簿の発行
- (9) 同窓会誌・同窓会だよりの発行
- (10) 井形賞（最優秀卒業生の表彰）の復活
- (11) 学内行事への協力
- (12) 学生会活動への協力
- (13) 寮生会活動への協力
- (14) 同窓会ホームページの運営
- (15) 総会の開催
- (16) その他、同窓会にふさわしい事業。

これからも、教職員・在学生（保護者含む）・卒業生の三者が協力し、教育環境の充実に尽くしていきましょう。皆様には「沼津高専同窓会 入会届け」のご提出および終身会費の納入（卒業時2万円）を併せてお願い致します。

事務部から

平成23年度前期分授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生、専攻科生の、平成23年度前期分授業料免除および徴収猶予申請を受け付けています。希望される場合は、下記のとおり申請してください。

なお、本科1～3年生は原則として、平成22年度に引き続き「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

提出締切日 平成23年3月30日(水)

提出書類 授業料免除願、授業料徴収猶予願、家庭調書、経済状況に関する調書、所得の証明書（源泉徴収票、確定申告書の写し等）、住民票 等

※所定の様式がありますので、申請を希望される場合は、学生係へ書類を取りに来てください。

- 注意事項**
- 1 申請書類提出の際は、事前に保護者から学級担任に、電話または手紙で申請理由の連絡をお願いします。
 - 2 提出書類は、学級担任の確認・押印後に学生係へ提出してください。
 - 3 平成22年10月1日以降に、懲戒処分（停学以上の処分）を受けた学生は免除の対象となりません。
 - 4 ご不明な点等ございましたら、学生課学生係（☎055-926-5734）にお問い合わせください。

行事予定表

平成23年

- 4月** 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
1年生合宿研修
- 5月** 学生総会
防災訓練
寮祭
後援会総会・保護者懇談会
- 6月** 一般共通科目前期中間試験
平成24年度専攻科入学試験
- 7月** 東海地区高専体育大会
1～3年生保護者懇談会
前期期末試験
近畿東海北陸信越弓道大会
- 8月** 一日体験入学
全国高専体育大会
平成24年度編入学試験
全国高専将棋大会
校内英語スピーチコンテスト
- 9月** 寮生リーダー研修

- 10月** 4年生工場見学旅行
2年生特別研修
体育祭・学生総会
高専ロボコン東海北陸地区大会

- 11月** 文化講演会
高専祭
東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト
授業参観・学科説明会
高専ロボコン全国大会

- 12月** 1～4年生一般共通科目中間試験
テクノフォーラム
4年生工学系数学統一試験
3年生課外教育特別講演

平成24年

- 1月** 中部近畿地区高専将棋大会
3年生学習到達度試験
3年生合宿研修
平成24年度推薦選抜入試
- 2月** 学年末試験
平成24年度学力選抜入試
- 3月** 5年卒業研究発表
卒業式・修了式